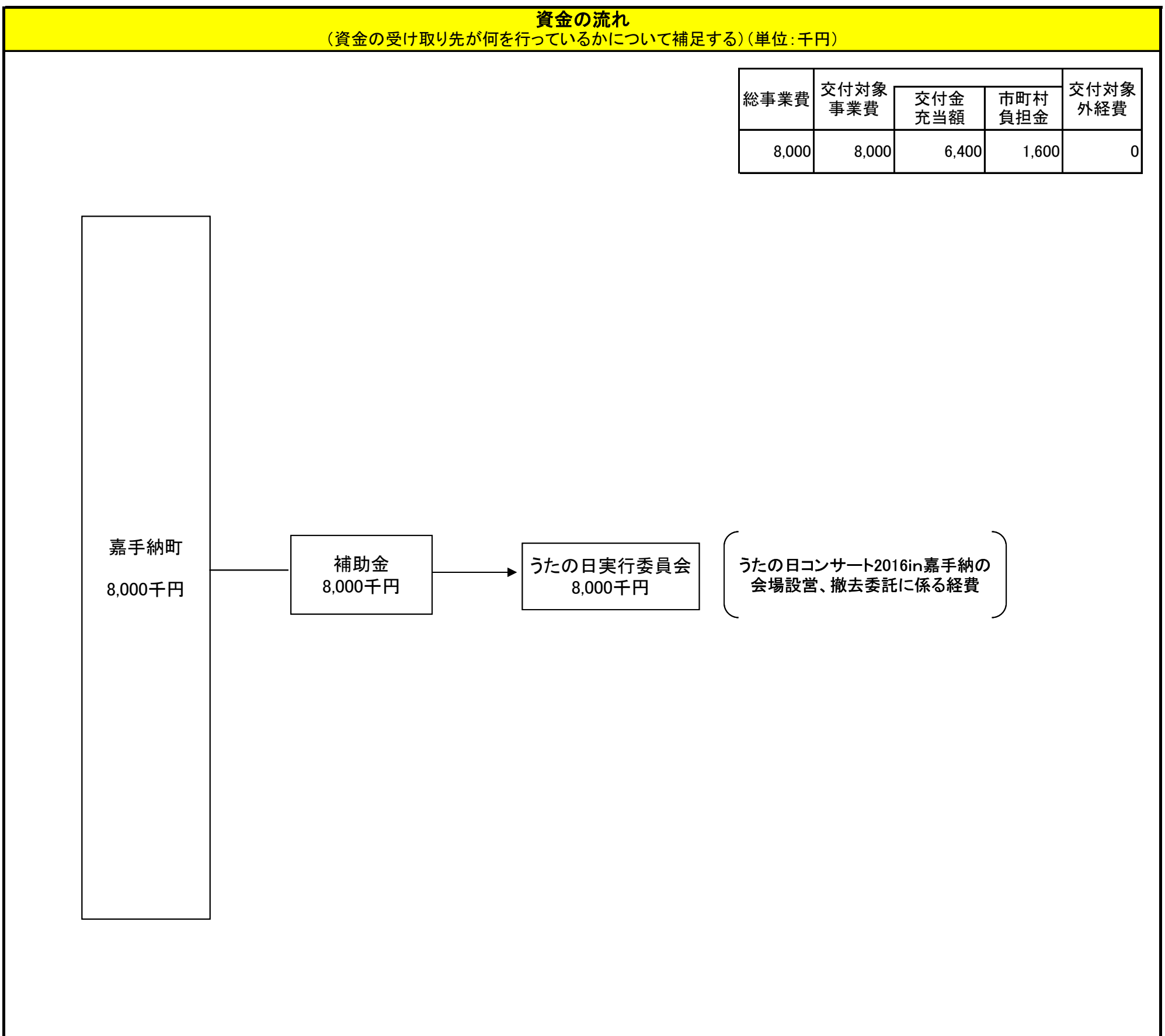


市町村名	嘉手納町						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	うたの日コンサート事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(2)-イ	
担当部課名	産業環境課	事業実施(予定)年度	平成25~28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	圏域の特色を生かした産業の振興 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	多くの観光客を誘客し、町の活性化を図るため、沖縄出身のトップアーティスト「BEGIN」が主体となって開催している「うたの日コンサート」における会場設営に係る経費の一部を支援する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		8,000	8,000	8,000	8,000	
			8,000	8,000	8,000	8,000	
			0	0	0	0	
			8,000	8,000	8,000	8,000	
		B. 執行済額					
		6,400	6,400	6,400	6,400		
		うち交付金充当額					
		0	0	0	0		
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)						
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			
	予算の状況の説明	コンサート会場の設営費及び撤去費の一部を補助して事業計画どおりに予算を執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	うたの日実行委員会への補助	目標	会場設備に係る(経費の一部を補助)	県内の大型イベントの誘致	うたの日コンサートの開催支援	うたの日実行委員会への補助	
		実績	会場設備に係る経費の一部を補助	県内の大型イベントを誘致した。	うたの日コンサートの開催を支援した。	うたの日実行委員会への補助をした	
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	うたの日実行委員会への補助は、当該事業の会場設営等に係る経費を補助対象としており、今年度も目標を達成することができた。 本事業の実施により、本町をPRすることができ、本町へ県内外からの観光客を誘客することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	平成27年度(基準値)⇒平成28年度(来場者数)5,000人⇒5,000人	目標	( )	(来場者数:8,000人)	(来場者数:5,000人)	(来場者数:5,000人)	( )
		実績		来場者数:8,000人	来場者数:5,000人	来場者数:6,000人	
	(町特産品のPR)3品⇒5品以上	目標	( )	(町特産品のPR:5品以上)	( )	(町特産品のPR:5品以上)	( )
		実績		町特産品PR:10品		町特産品のPR:9品	
	(町商工業者の出店)4店舗⇒5店舗以上	目標	( )	(町商工業者の出店:5店舗以上)	( )	(町商工業者の出店:5店舗以上)	( )
実績			町商工業者の出店:6店舗		町商工業者の出店:7店舗		
進捗状況説明	来場者数6,000人を集客することができ、目標の5,000人を達成することができた。要因としては、観光客が集うイベント等でうたの日コンサートの広報活動を十分に行えたこと、本町での開催が4回目でありイベント開催場所としての認知度が向上したこと、開催前にテレビで特集されたことが考えられる。 町が特産品として推奨する町内事業所の商品を9品、うたの日コンサート会場で販売することができた。また、町商工業者の出店については特産品事業所を含み7店舗が出店することができた。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	観光客誘客による本町の活性化を図るため、沖縄県出身のトップアーティスト「BEGIN」が主体となって開催している県内の大型イベント「うたの日コンサート」を誘致し、会場設営に係る経費の補助を行った。	来場者へ本町のガイドブックを配布したが、観光客にとっては分かりにくい内容だったと感じたため、ガイドブックを観光客向けに見直し、町を周遊させる仕組みづくりを行う必要があると考える。また、イベントの開催情報とあわせて町観光情報を発信する必要があると考える。
	昨年度との変更点として、来場者へ本町のガイドブックの配布し町のPR活動を行ったが、ガイドブックの内容が町民向けとなっているため観光客にとっては分かりにくい内容だった。 イベントの開催情報について十分な発信ができたが、それ以外の町観光情報の発信が弱かったと感じた。	
今後の取り組み方針		
前年度に引き続き、観光客が集うイベント等で積極的にうたの日コンサートの周知活動を行い、来場者を増やす。 うたの日コンサートの来場者が町を周遊するよう、町のガイドブックを観光客向けに作成する。また、町をPRする情報発信の強化と本町観光資源の魅力を伝えるコンテンツの作成を検討し、嘉手納町を訪れるリピーターを増やす。		



資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法については、過去の事業実績等を勘案し、決定したため妥当だと考える。 ○予算規模については、事業内容、事業開催条件、事業規模を確認し、補助金を支出しており適正だと考える。 ○費目・使途については額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であると判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		嘉手納町					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	嘉手納町観光客受入体制整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア		
担当部課名	産業環境課	事業実施(予定)年度	平成26~28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	嘉手納町観光振興基本計画に基づき、観光振興の基盤となる更なる人材の確保・育成を図るため、嘉手納町観光ガイド育成講座を実施する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
		(a)当初予算額	2,402	2,117	3,646		
	(b)予算現額	2,402	1,968	3,172			
	(c)増減額(b-a)	0	▲149	▲474			
	(d)繰越額	-	-	-			
	A.計(b+d)	2,402	1,968	3,172			
	B.執行済額	2,133	1,968	3,172			
	うち交付金充当額	1,706	1,574	2,537			
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	88.8%	100.0%	100.0%			
予算の状況の説明	入札残額と受講者数減少による減額があるが、変更契約を行い執行率は100%となっている。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	平成27年度	28年度	29年度	
	研修講座(10回)	目標	( 研修講座 )	( )	( 研修講座:10回 )		
		実績	研修講座の実施		研修講座:12回		
	実地研修の実施(5回)	目標	( )	( )	( 実地研修の実施:5回 )		
		実績			実地研修の実施:5回		
	先行事例視察(2回)	目標	( 先行事例視察 )	( )	( 先行事例視察:2回 )		
		実績	先行事例視察の実施		先行事例視察:2回		
	【参考指標】 派遣期間:58日	目標	( )	( 派遣期間:58日 )	( )		
		実績			派遣期間:58日		
【参考指標】 ホームページの作成	目標	( )	( ホームページの作成 )	( )			
	実績			ホームページ開設			
【参考指標】 観光情報カードの作成	目標	( )	( 観光情報カードの作成 )	( )			
	実績			観光情報カードの作成			
達成状況説明	沖縄と嘉手納町の歴史や産業の知識、ガイド技術等を取得するための研修講座を12回実施し、受講者の受講状況に合わせて補講等も行った。また、講座終了後にはアンケートを実施した。アンケート結果をもとに受講者の講座内容理解度を把握し、講座運営に反映させた。 実地研修については、実地試験を含めて5回実施した。 先行事例視察では那覇市と宜野座村の県内2か所の先進地を視察し、実際の観光ガイドプログラムを体験することでより実践的な研修内容となり、ガイド養成に向けた効果的な研修を行うことができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	観光ガイドの育成人数10名	目標	( )	( )	( 観光ガイドの育成人数:10名 )		( )
		実績				観光ガイドの育成人数:7名	
	【参考指標】 観光ガイドによる観光客の受入:30回	目標	( )	( 受入:30回 )	( )		( )
		実績			受入24回		
進捗状況説明	観光ガイドの養成人数を10名と目標設定し、養成講座受講生の募集を行った。講座に関する問合せや受講希望者は10名以上いたが、講座実施時間を基本的に平日の日中とした点や、ガイドの認定基準として講座出席率70%以上を最低の条件としていたことにより、日程等が合わず受講を辞退した方が複数いたため、目標の10名を下回る7名の観光ガイド養成という結果となった。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	嘉手納町は道の駅かでなを中心に、年間約50万人の観光客が訪れているが、観光資源間のつながりが弱く、道の駅かでな以外の観光スポットへの周遊が少ない通過型の観光となっている。	本町での滞在時間を増加させる観光資源間の周遊促進を図るため、本町の観光魅力をPRできる観光ガイドの人員を増やし、安定的にガイドを実施する環境整備が必要。
	観光ガイド養成講座の受講者数が7名で、受講者の受講状況に合わせて補講等も行い受講者全員が観光ガイドに認定されたが、目標としていた観光ガイド育成10名を下回る結果となった。	観光ガイド養成講座の受講者数を増加させるため、新たな取り組みを行う必要がある。
	道の駅かでなへ訪れた観光客には時間制約がある観光客もあり、道の駅施設内等、現在のガイドコース以外のガイド要望がある。	様々な観光客のニーズに対応できる観光ガイドコースの増設が必要となる。
<b>今後の取り組み方針</b>		
先進地である宜野座村観光ガイドの人員が40名おり、安定的な観光ガイドの運営を行うためには同数程度の人員が必要と考えている。現在、嘉手納町の認定ガイドが17名であることから、引き続き観光ガイド養成講座を行い観光ガイドの人員増加を図る。 受講を考えている方に観光ガイド体験ツアー等を実施し、受講者数の増加に努める。 町内周遊のアプローチとなる道の駅施設内のガイドマニュアルを作成するとともに、多様なニーズに対応できるよう観光ガイドコースの増設に努める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)																
				<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">総事業費</th> <th rowspan="2">交付対象事業費</th> <th colspan="2">交付対象事業費</th> <th rowspan="2">交付対象外経費</th> </tr> <tr> <th>交付金充当額</th> <th>市町村負担金</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3,172</td> <td>3,172</td> <td>2,537</td> <td>635</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	総事業費	交付対象事業費	交付対象事業費		交付対象外経費	交付金充当額	市町村負担金	3,172	3,172	2,537	635	0
総事業費	交付対象事業費	交付対象事業費		交付対象外経費												
		交付金充当額	市町村負担金													
3,172	3,172	2,537	635	0												
<pre> graph LR     A[嘉手納町 3,172千円] --&gt; B[委託料 3,172千円]     B --&gt; C[株式会社 OTSサービス 経営研究所 3,172千円]     subgraph Note     C --- D[嘉手納町観光ガイド養成講座委託業務]     end </pre>																
資金の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明													
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は随意契約により決定したが、公募プロポーザルで選定しており、妥当であったと考えている。													
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については3社から見積もりを徴収し、比較検証したため適正な規模と考える。													
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であると判断した。													
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。														



市町村名	嘉手納町						
<b>平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	1-③	屋良城跡公園総合再整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部課名	都市建設課	事業実施(予定)年度	平成25~28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受け入れ体制の整備	
事業内容	観光資源に乏しい本町において、屋良城跡公園は比謝川を生かしたエコツアーや川祭りの会場として大きな可能性を持っており、観光入域客数の増加や地域活性化を図るため、屋良城跡公園の総合再整備を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	<b>予算の状況</b>	(a) 当初予算額	3,885	6,415	7,614	16,827	
		(b) 予算現額	3,245	6,415	7,344	11,556	
		(c) 増減額(b-a)	▲ 640	0	▲ 270	▲ 5,271	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	
		A. 計(b+d)	3,245	6,415	7,344	11,556	
	B. 執行済額		3,244	6,372	7,344	11,556	
	うち交付金充当額		2,595	5,097	5,875	9,244	
	次年度繰越額		—	—	—	—	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	99.3%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		・当初予算額は、調査墳墓数50基を含む16,827千円であった。発注時に対象墳墓を再検討した結果公園地区外等や除外すべき墳墓が判明した。そのため調査対象墳墓が35基での事業執行となったことと、入札残により不用額5,271千円が発生した。 ・履行期間中における変更等もなく、また出来高不足もなかったことから当初契約額と変更なしで精算した。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H28活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	屋良城跡公園総合再整備墳墓調査の実施	目標	( )	( 墳墓調査業務の実施 )	( )	( )	
		実績		墳墓調査業務の実施			
	【参考指標】 屋良城跡公園総合再整備基本設計検討・測量業務(基準点測量・現地測量) ・公園基本設計(現地調査・与条件の細部検討・諸施設の検討及び設計・基本設計図の作成・鳥瞰図及び透視図の作成)	目標	( 基本設計業務の実施 )	( )	( )	( )	
		実績		基本設計業務の実施			
達成状況説明	・公園内の墳墓等に関する現地踏査、基準点測量、用地現況測量を実施した。 ・公園内の墳墓等に関する管理者等の特定と、無縁墳墓等に関する調査を実施し、墳墓管理者等調査表を作成した。 ・公園内の墳墓等の種類を分類し、図面の作成作業と、墳墓移転補償費算定を実施した。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	平成29年度墳墓補償に向けた業務の着実な実施(移転補償費等の算定の完了)	目標	( )	( )	( 墳墓調査の実施 )	( )	( )
		実績			墳墓調査の完了		
	【参考指標】 実施設計に向けた事業の着実な実施(基本設計の完了)	目標	( )	( 基本設計の実施 )	( )	( )	( )
		実績		基本設計の実施			
	進捗状況説明	・公園内の墳墓等に関する現地踏査、基準点測量、用地現況測量を実施することで、墳墓移転補償料算出のための基礎情報を把握することができた。 ・公園内の墳墓等に関する管理者等の特定調査を実施することで、無縁墳墓等の情報を把握することができた。 ・墳墓移転補償費算定を実施したことで、今後の事業推進で生じる公園内墳墓の移転補償時の情報を把握することができた。					

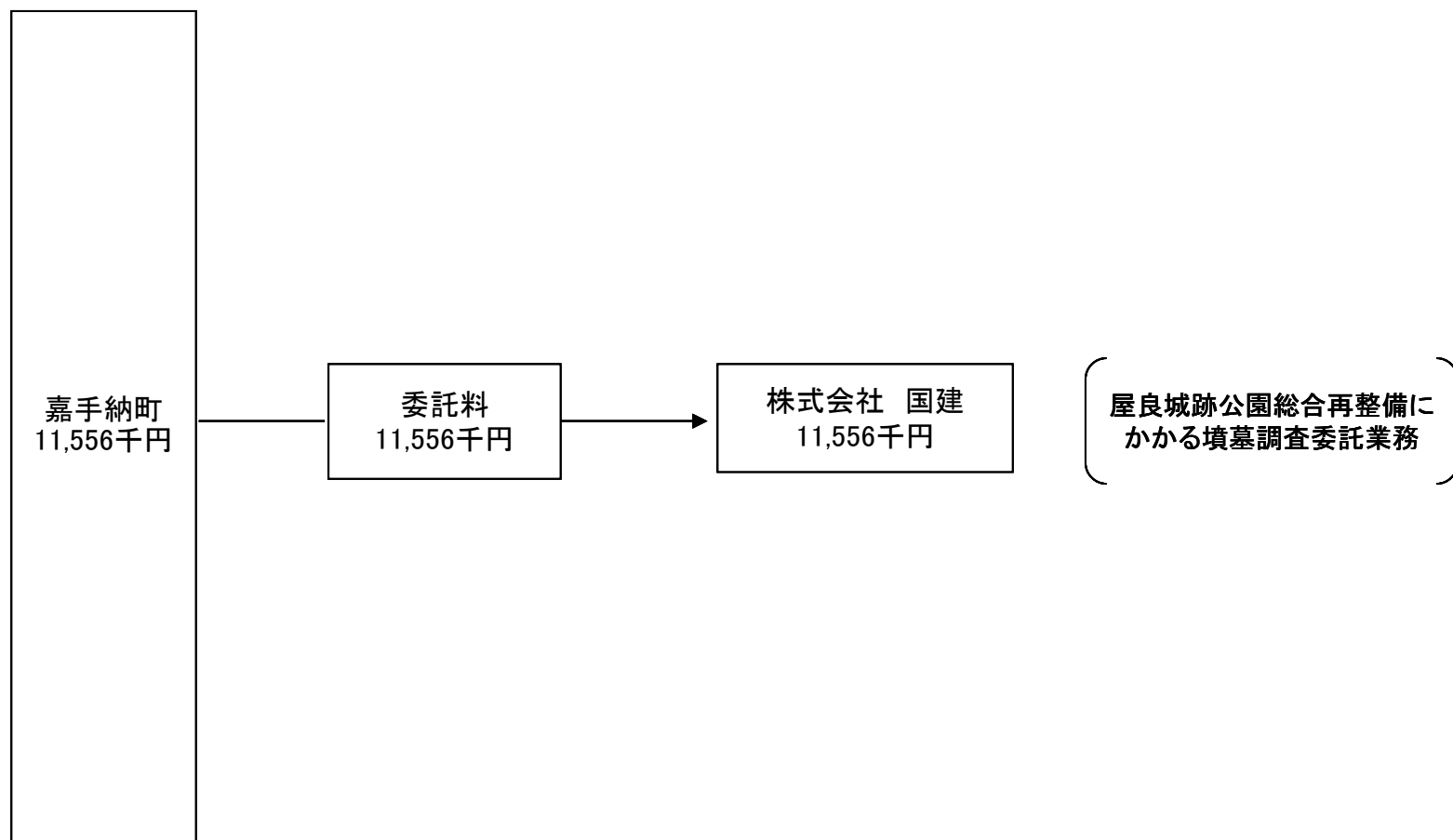
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>本事業は城跡の名勝や比謝川の自然を体験してもらうことで、観光入域客数の増加や地域活性化に向け、既存公園の総合再整備を行うものである。平成28年度は、公園内に現存する墳墓等の調査委託業務である。墳墓等調査業務の結果、公園内に多数の無縁墳墓等が確認された。管理者が不明の無縁墳墓等に関しては、「墓地、埋葬等に関する法律施工規則」に基づく改葬手続きが必要となる。</p>	<p>・H28年度活動目標は達成されており、今年度事業に対する改善の必要はないものと考えられる。</p> <p>・平成28年度において実施した工事において、施工上の問題点や、工程管理での問題点、地域住民への対応等の対策を引平成29年度も同様の工事であることから今後の工事に活かしていく。</p>

**今後の取り組み方針**

多くの人々に利用される華やかな公園とするため、平成28年度までに基本設計、墳墓調査等の基礎調査を完了することができた。平成29年度までに取りまとめた成果をもとに、公園内に位置する墳墓の移転補償を行う。平成30年度以降で、実施設計を行い具体的な構造物の配置・事業費の算出等を行い整備工事を実施する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
11,556	11,556	9,244	2,312	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法に関し、指名競争入札により決定した。県内において、測量及び補償の実績を有する業者を指名し入札に付したことにより、同等程度の実力の業者間で価格競争が促されたことにより、事業遂行能力及び経済性をも勘案した内容での発注ができた。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○発注時に事業費の見直しを行った結果予算残額が生じたが、発注後の予算の増減は生じなかったため適正な予算規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目及び用途については、屋良城跡公園総合再整備墳墓調査業務を実施するうえで、事業目的に沿った支出であり適正であるとする。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	嘉手納町						
<b>平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	1-④	兼久海浜公園リニューアル事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部課名	都市建設課	事業実施(予定)年度	平成26~28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	新たにスポーツ等の観戦客や公園を利用する町外からの入域数の増加を図るため、これまでの施設利用方法、利用者層及び公園ニーズについて再検証し公園施設の再検討を行うとともに、その結果を基に公園のリニューアル整備を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度			
	<b>予算の状況</b>	(a) 当初予算額	10,044	10,725	14,958		
		(b) 予算現額	10,044	10,725	14,580		
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 378		
		(d) 繰越額	—	—			
		A. 計(b+d)	10,044	10,725	14,580		
	B. 執行済額		8,856	10,584	14,580		
	うち交付金充当額		7,084	8,467	11,664		
	次年度繰越額		—	—	—		
	執行率(%) (B/A)		88.2%	98.7%	100.0%		
予算の状況の説明		事業計画通りに執行した。 当初より予定していた内容にて競争入札を執行した。 当初予算額14,958千円であったが、入札の執行により不用額378千円となった。 履行期間中における変更等もなく、また、出来高不足等もなかったことから、当初契約額と変更無しで精算した。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H28活動目標(指標)		達成状況				
	現地調査	目標	( 現地調査 )				
		実績	上位計画に基づき、諸施設を現地と対応させるための調査を行った				
	与条件のサブ検討	目標	( 与条件のサブ検討 )				
		実績	上位計画に基づき、変更すべき項目、制度を上げる項目を検討				
	諸施設の検討及び設計	目標	( 諸施設の検討及び設計 )	( )	( )	( )	( )
		実績	諸施設の位置や規模、内容等について検討及び設計				
	基本設計図の作成	目標	( 基本設計図の作成 )	( )	( )	( )	( )
		実績	公園施設及び施工について概要を示した基本設計図を作成				
	鳥瞰図及び透視図の作成	目標	( 鳥瞰図及び透視図の作成 )	( )	( )	( )	( )
実績		主要施設を含む公園全体を立体的に把握する為の鳥瞰図及び透視図を作成					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>上位計画に基づき、諸施設を現地と対応させるため現地調査を行った。</li> <li>上位計画に基づき、前提条件の整理を踏まえ与条件の検討を行った。</li> <li>諸施設の検討及び設計について、利用機能、管理、美観、安全性、事業費等を勘案し検討して設計を行った。</li> <li>本公園の完成した姿を明確に表すとともに、公園施設及び施工について概要を示した基本設計図を作成した。</li> <li>主要施設を含む公園全体を立体的に把握する為の鳥瞰図、及び透視図を作成した。</li> </ul>						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	平成29年度実施設計に向けた事業の着実な実施(基本設計の完了)	目標	( )	( )	( )	( 基本設計の実施 )	( )
		実績					基本設計の完了
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>兼久海浜公園リニューアル基本設計を行うことで、今後の実施設計・整備工事を円滑に進められるよう基本設計を実施した。</li> <li>今後の施設整備に向け、基本計画等の上位計画に基づき、諸施設を現地と対応させるとともに、各施設相互の調整を図り、規模、位置、内容等を設定した。</li> <li>平成29年度は、今回実施した基本設計を基に、実施設計を行う。</li> </ul>						

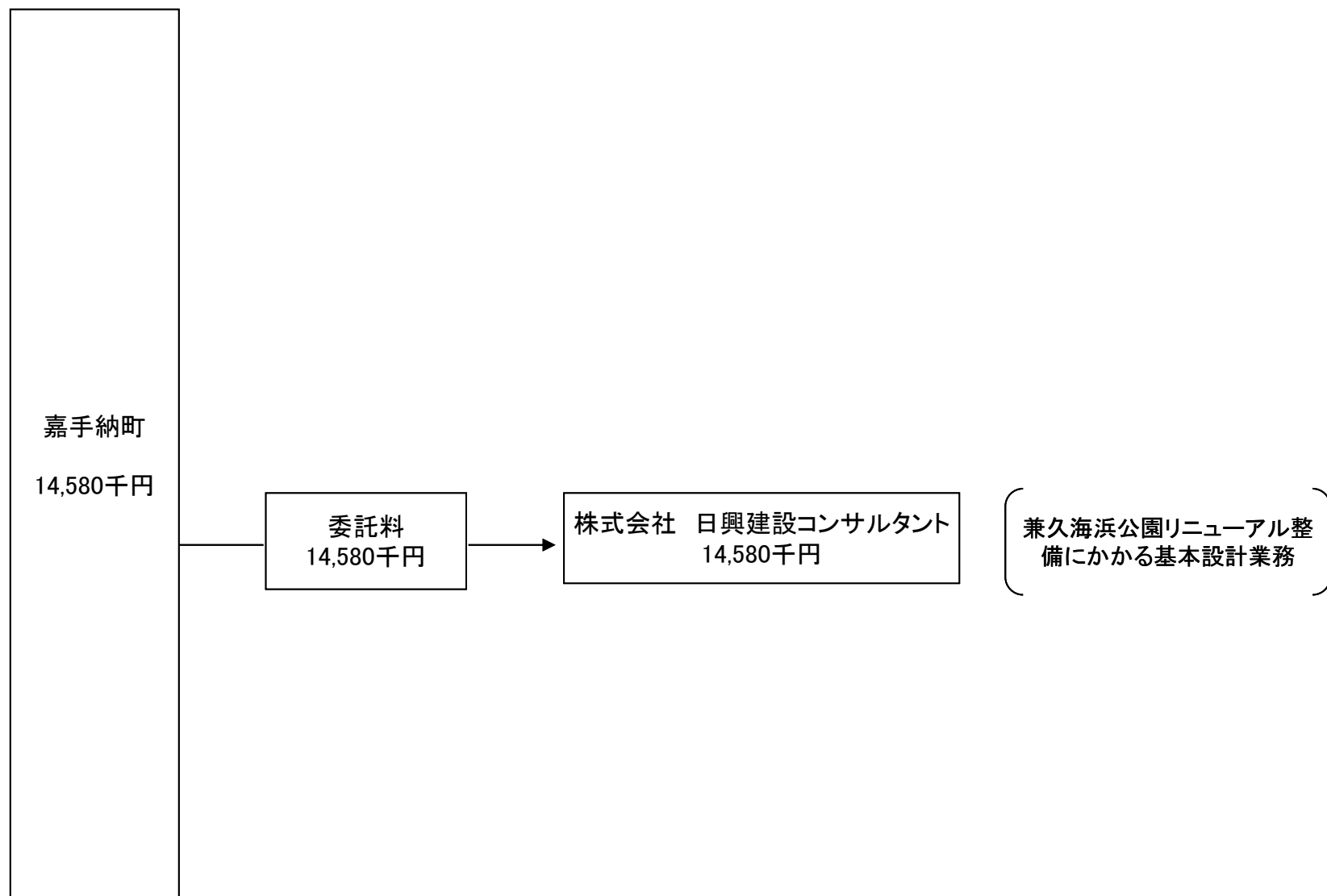
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在本公園内のスポーツ施設等について指定管理を行い、公園施設を直営で管理している。今後事業を実施し将来的に観光客数を増やす施策や、「海の広場」等の整備による公園利用方法の多様化に伴い、公園管理体制等の見直しを検証する必要がある。</li> <li>・町外からの公園利用者を増やし、観光促進を図るために、比謝川河口の漁港からサンセットクルージング・グラスボートを本公園内の浮棧橋間にて運行する計画がある。本航路が嘉手納基地(嘉手納マリーナ)と隣接していることから基地関係者との協議・調整が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の指定管理関係者等との協議、他市町村の事例調査を実施する必要がある。</li> <li>・嘉手納基地(嘉手納マリーナ)との境界について、基地関係者と詳細な協議・調整を実施する。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

前年度にて実施した基本設計を踏まえ、諸施設の関係者・関係機関との調整を図り、本公園整備工事の指標が明確となる実施設計を行い公園リニューアル事業を実施していく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,580	14,580	11,664	2,916	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、執行率97%以上であり適正な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



市町村名	嘉手納町						
<b>平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	1-⑥	屋良東部地区地域振興施設機能拡充事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ		
担当部課名	産業環境課	事業実施(予定)年度	平成25~30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	平成26年度に策定した道の駅かでの機能拡充基本計画に基づき、屋良東部地区地域振興施設駐車場の実施設計を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	<b>予算の状況</b>	(a) 当初予算額	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
		(b) 予算現額	221,660	8,370	22,032	2,764	
		(c) 増減額(b-a)	158,665	149,517	22,032	2,689	
		(d) 繰越額	▲ 62,995	141,147	0	▲ 75	
		A. 計(b+d)	-	-	-	-	
	B. 執行済額		158,665	149,138	22,032	2,689	
	うち交付金充当額		126,928	119,310	17,625	2,151	
	次年度繰越額		-	-	-	-	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	99.7%	100.0%	100.0%	
	予算の状況の説明		入札残による減額があるが、事業計画どおりに執行した。				
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H28活動目標(指標)		達成状況				
	・測量業務	目標	26年度	27年度	28年度	29年度	
		実績	道の駅かでの機能拡充基本計画の検討	道の駅かでの機能拡充基本計画の検討	(測量業務の検討)	( )	
	・駐車場設計	目標	( )	( )	(駐車場設計の検討)	( )	
		実績			測量業務の実施	駐車場設計の実施	
	達成状況説明	基本設計で作成した駐車場区画等を見直し、測量業務を行い駐車場設計を実施した。					
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	平成29年度 屋良東部地区地域振興施設の駐車場工事着工に向けた事業の着実な実施(駐車場実施設計の完了)	目標	( )	(屋良東部地区地域振興施設機能拡充基本設計の検討)	(駐車場実施設計の検討)	( )	( )
		実績		屋良東部地区地域振興施設機能拡充基本設計の実施	駐車場実施設計の完了		
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	進捗状況説明	平成29年度に予定している屋良東部地区地域振興施設の駐車場工事着工に向け、駐車場整備実施設計を行った。					

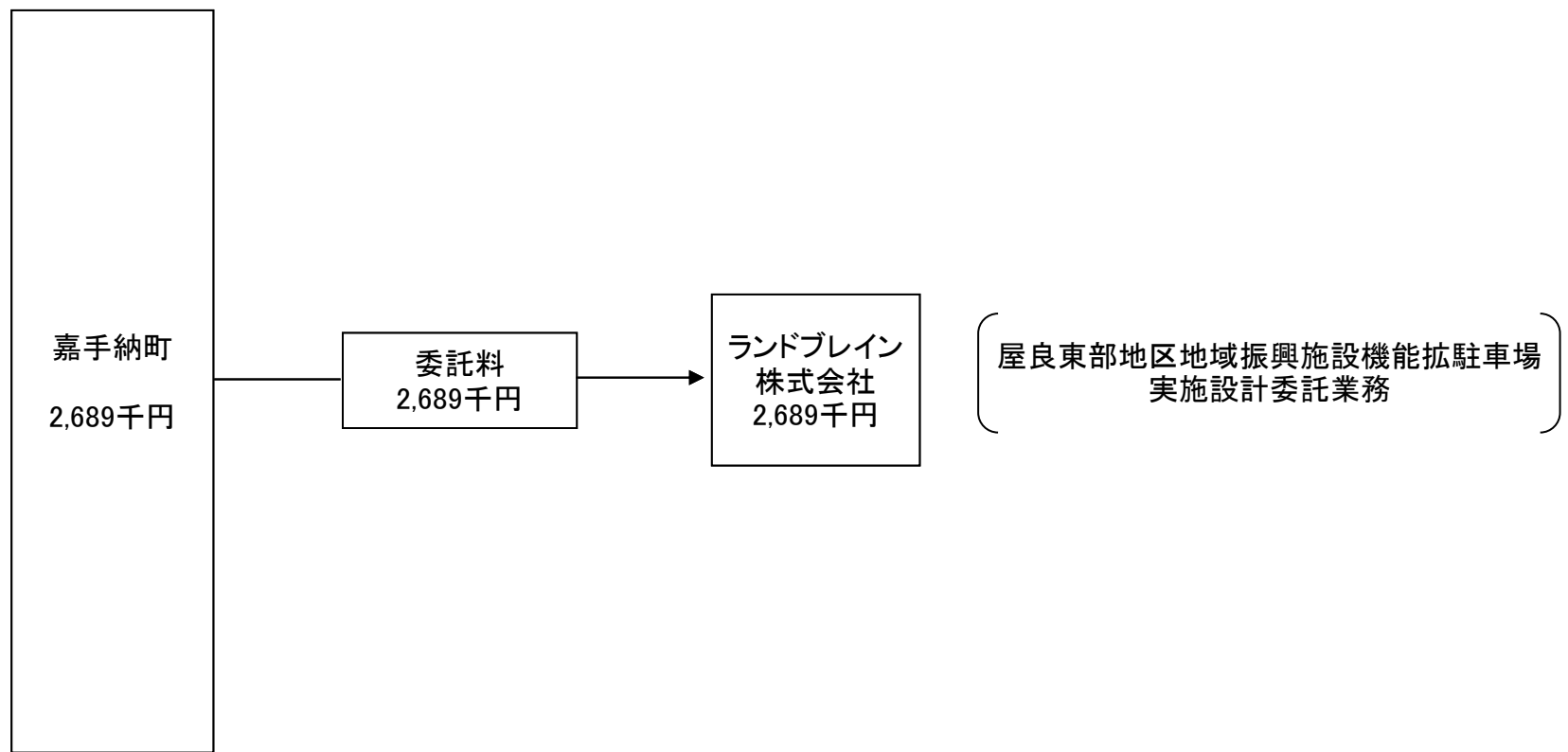
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>屋良東部地区地域振興施設は年間約50万人の観光客が来場するが、展望場で米軍基地を展望した後、すぐに施設を退館する通過型の施設になっている。</p> <p>基本設計で策定した駐車場計画では緑地帯が多く設けられており、来場者の増加を図り滞在時間の増加を目的としている機能拡充実計画としては、駐車台数が少ない計画となっていた。また、照明設備の設置が検討されていなかった。</p> <p>駐車場整備予定地が隣接地と高低差があることから、擁壁設置の有無を検討する必要がある。</p>	<p>策定した基本設計を基に、平成30年度に予定している屋良東部地区地域振興施設機能拡充建築工事に向けて、より具体的なテナントの配置計画や施設整備方法を検討し、目的地となる施設建築に向けて取り組む。</p> <p>基本計画で策定された駐車場計画の緑地帯を最小限にし駐車台数を増加させた。また、照明器具等を設置し、駐車場利用者の安全確保を図る。駐車場整備予定地が隣接地より地盤が高いため、擁壁を設置する。</p>

**今後の取り組み方針**

平成30年度に行う建築工事に向けた施設の配置計画や面積を確定させ、建築工事に必要となる詳細図書をまとめた実施設計を作成する。作成した実施設計に基づき、駐車場整備工事を実施する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

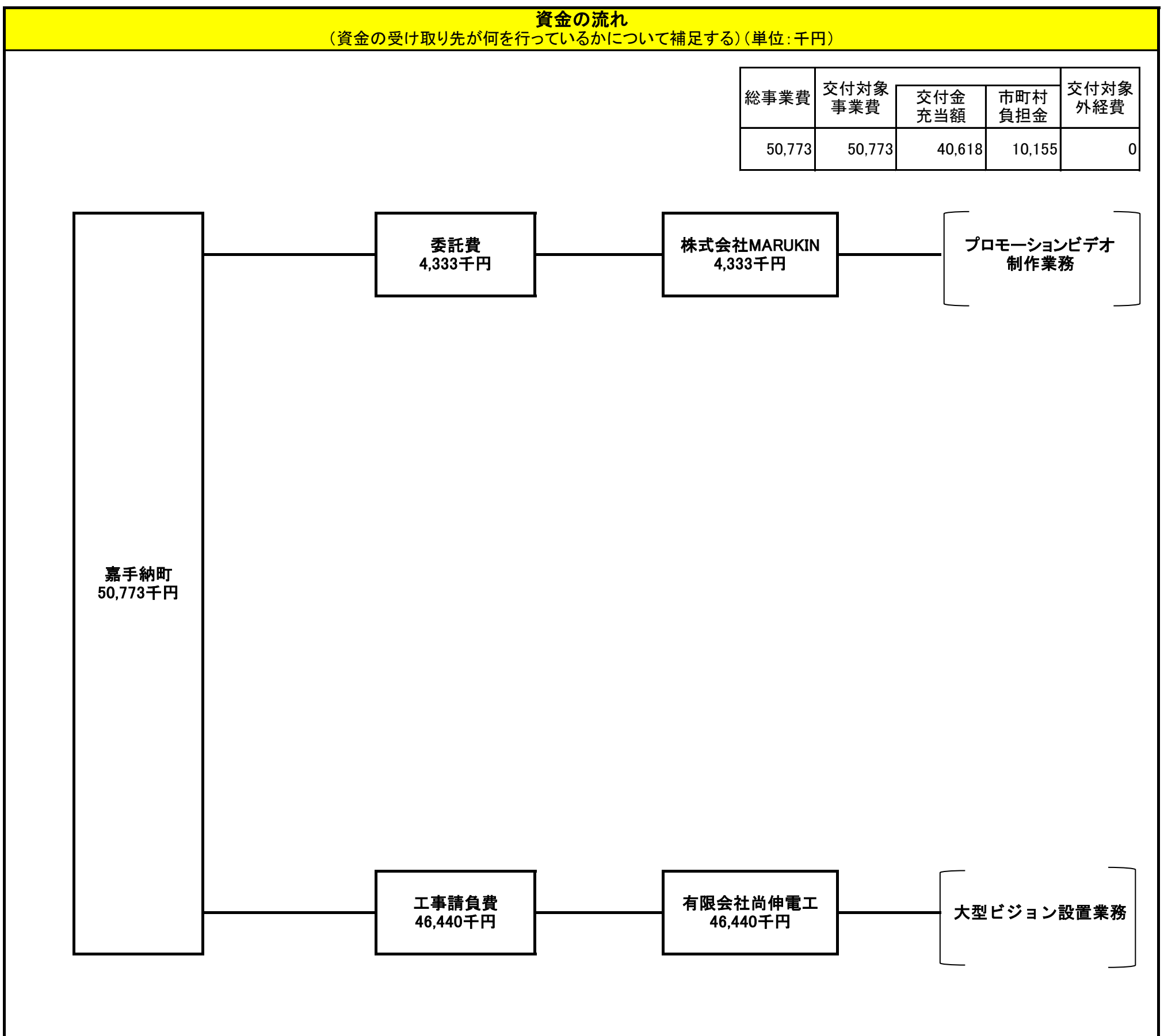
総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
2,689	2,689	2,151	538	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法については、事業の規模や実績等を勘案し、指名審査委員会にて決定したため妥当だと考える。 ○予算規模は、基本設計策定業務委託については2社以上から見積もりを徴収し、予算を積算しており妥当だと考える。 ○費目、用途については、精算段階で内容を検証しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	嘉手納町						
<b>平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	1-⑦	嘉手納町観光情報発信事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-イ	
担当部課名	企画財政課	事業実施(予定)年度	平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	市場特性に対して誘客活動の展開		
事業内容	本町には魅力ある観光資源があるが、情報発信に課題があり、国内外の観光客へ有益な情報を伝えられていない現状がある。そこで、観光情報に特化した情報コンテンツの作成と放映するための大型ビジョンを整備する事で多言語にも対応した情報発信の強化を図り、さらなる観光客の誘客動線の確立を図る。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		45,910				
			50,773				
			4,863				
			0				
			50,773				
	B. 執行済額		50,773				
	うち交付金充当額		40,618				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		4,863千円の増額については、工事において配線工事の規模が当初予定よりも増えた事により工事費が増加したため。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	・観光情報コンテンツ作成	目標	(コンテンツ6作品)	( )	( )	( )	
		実績	コンテンツ6作品				
	・大型ビジョンの設置	目標	(1基)	( )	( )	( )	
		実績	1基				
達成状況説明	コンテンツ6作品(観光資源3作品とイベント情報3作品)と大型ビジョン設置工事1基の設置工事を完了した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	・観光情報コンテンツ作成と大型ビジョンの設置の着実な実施	目標	( )	(実施する)	( )	( )	( )
		実績		実施した			
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	進捗状況説明	本町の観光情報を発信するために観光情報コンテンツ6作品を制作し、午前7時から午後9時までの1日14時間、年間通して放映する。6作品のうち3作品は本町の主な観光資源を「平和学習(道の駅かでな)」「自然体験(カヌー・遊歩道)」「中心商店街」の3つのカテゴリーに分け、町内各所で撮影を実施した。残りの3作品は伝統的で来場者の多いイベント「ハーリー大会」「野國總管まつり」「エイサーまつり」の映像を制作した。 観光客は主に南部から北部へ向けて県内を移動する。そのため交通量の多い国道に面した場所に設置し誘客案内の強化を図った。大型ビジョンパネルの縦幅約2.8メートル、横幅約4.8メートルの大きさを1基設置した。 今後は、未発信の観光資源についてもコンテンツを追加制作する必要性がある。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	本町には史跡や伝統芸能、アクティビティ、イベント等多くの観光資源はあるが、情報発信力が弱いという課題があり、その強化を図る必要があった。この事業を通して、情報発信する大型ビジョンを整備したことで、多言語化やイベント情報の告知が容易に図れる環境が備わった。	今後は未発信のイベントや史跡、施設といった観光資源へ案内ができるよう映像を追加制作する必要がある。また情報過多となり発信が煩雑にならないよう掲載基準を定め、大型ビジョンを適切に管理し、常に情報発信ができる環境を維持する必要がある。
	今後の課題としては、まだ発信できていない観光資源やイベント情報等のコンテンツ追加を行う必要があること。情報発信が煩雑になる恐れがあること。情報発信ができる環境を維持しなければならないことがあげられる。	
今後の取り組み方針		
<p>今年度、大型ビジョンと観光情報のコンテンツを制作することで、本町の課題であった観光情報発信力の強化を図る事ができた。今後は未発信の観光資源の情報を追加制作する。また年間スケジュールに合った観光資源の情報発信を行う掲載基準を設ける。併せて、情報発信が滞らないよう大型ビジョンのメンテナンスを行い、常に稼働できる環境を整える。</p>		



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○プロモーションビデオ制作はプロポーザルで選定しており、設置工事は指名入札にて選定しており、妥当であると考えている。 ○不用額もなく、適正な規模である。 ○費用、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



市町村名	嘉手納町						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	学習支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部課名	教育指導課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	算数、数学、国語の基礎学力定着のため、教師と連携を図りながらチームティーチング、習熟度別授業を行うとともに、また、夏季休業・冬季休業の期間中に個別指導及び放課後の補習授業を行う学習支援員を配置する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	<b>予算の状況</b>	(a) 当初予算額	2,631	10,544	10,552	13,212	13,186
		(b) 予算現額	2,631	10,416	10,552	12,986	12,657
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 128	0	▲ 226	▲ 529
		(d) 繰越額	—			—	—
		A. 計(b+d)	2,631	10,416	10,552	12,986	12,657
	B. 執行済額		2,631	10,416	10,277	12,986	12,657
	うち交付金充当額		2,000	8,000	8,221	10,389	10,125
	次年度繰越額		—	—	—	—	—
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	97.4%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		学習支援員を本町小学校に4名、中学校に1名を配置し、小学校は、4名の報酬と社会保険料をそれぞれ12ヶ月分執行しているが欠勤があった。中学校においては、10ヵ月分の雇用で報酬と社会保険料を執行した。予算現額の減が529千円であるのは、欠勤による報酬の残額と未雇用2ヵ月分である。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H28活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	<b>学習支援員配置数</b> 小学校:4人 中学校:1人	目標	( 小学校3人 中学校1人 )	( 小学校3人 中学校1人 )	( 小学校3人 中学校1人 )	( 小学校4人 中学校1人 )	( 小学校4人 中学校1人 )
		実績	小学校3人 中学校1人	小学校3人 中学校1人	小学校3人 中学校1人	小学校4人 中学校1人	小学校4人 中学校1人
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
	実績						
達成状況説明	小学校においては、全学年を対象に算数の時間に学級を分割。少人数を学習支援員が担当した。また、放課後の補習指導において学習支援員が問題を作成し、添削指導を行った。 中学校においては、チームティーチング(二人指導者体制)を実施し、理解の遅い生徒に対して、学習支援を行った。数学を優先させ学力向上に力を入れた。 国語においては、小中学校ともに学力の弱い児童生徒に対し放課後補習を行った。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	28年度
	県到達度調査正答率において、(小学校5年生)県平均以上にする 平成26年度 国語 県平均58.3% 嘉手納町58.3% 算数 県平均58.9% 嘉手納町61.7%		目標	( ) ( 県平均以上 )	( 県平均以上 )	( 県平均以上 )	( 県平均以上 )
	(中学校2年生)国語県平均以上 数学-3%以内 平成26年度 国語 県平均55.7% 嘉手納町57.4% 算数 県平均43% 嘉手納町37.2%		実績	小3 × 小5 ○ 中2 ×	小3 ○ 小5 ○ 中2 ×	小3国語× 算数× 小5国語× 算数× 中2国語× 算数	小5国語○(64.2%/60.9%) 算数×(62.7%/63.4%) 中2国語×(56.7%/61.2%) 数学×(46.4%/53.9%)
			目標	( )	( )	( )	( )
			実績				
進捗状況説明	国語の県平均は、小学生5年60.9%、中学2年生61.2%で、各学年の平均が5年生64.2%、中学2年生56.7%の結果になっている。 算数・数学の県平均がそれぞれ5年生63.4%、中学2年生53.9%、各学年の平均が5年生62.7%、中学2年生46.4%という結果になっている。 5年生国語以外は、県平均を上回ることができなかった。思考力、判断力を問われる応用問題への対応ができず課題となった。						

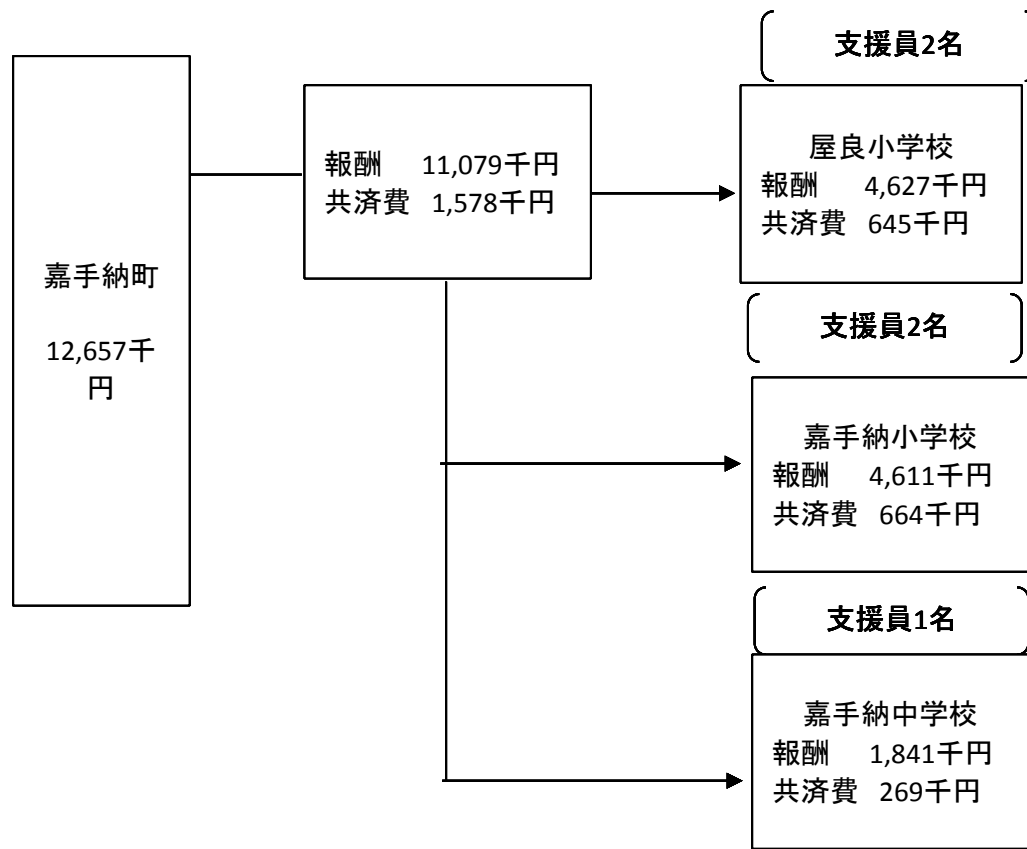
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>学習支援員が、学力が未定着児童生徒の支援を行ったが、対象となる児童生徒の人数が多く、一人一人に対応する時間が少なくなり、学習内容を十分理解させるまでには至らなかった。</p> <p>基礎的な内容の反復練習を中心に、学習支援員が対象となる児童生徒に支援を行ったが、定着するまでには至らず、点数の上積みができなかった。</p>	<p>①対象となる児童生徒が学習内容を理解し、基礎的基本的な力が定着していくように、授業の内容をしっかりと理解できるよう、二人の教師が協力して授業を行うチームティーチングを実施し、個別の指導場面を創出する。</p> <p>②放課後の補習指導では、反復練習を中心に、繰り返し基礎的基本的な問題を解き、理解する力を身につける。</p> <p>③補習だけでは対応できないため、プリントで宿題を出し、学力を定着させる内容にする。</p>

**今後の取り組み方針**

- ①二人の教師が協力して授業を行うチームティーチングで、個別の支援場面を作る。
- ②授業と家庭学習の連動として、授業の復習だけでなく、問題を解くために必要な前学年までの内容も身につけるような宿題を課す。
- ③補習指導で、前学年度までの内容をしっかりと押さえられるように学級担任と協力した補習指導の実施を行う。
- これらを通して、県到達度調査における国語算数正答率を各学年とも県平均以上とする。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
12,657	12,657	10,125	2,532	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○支援員は嘉手納町嘱託員設置要綱に基づき採用した。</p> <p>○予算は嘉手納町特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例施行規則に基づき計上されており、適正であった。</p> <p>○費目・用途については、報酬と共済費のみであり、支援員配置事業に必要なものに限定されている。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	嘉手納町						
<b>平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	2-②	英語力強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部課名	教育指導課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	教育課程特例校としての特典を生かし、小学校では英語に親しむ環境をつくり、中学校は実用的な英語を学ぶため、ネイティブスピーカーの講師(ALT)を配置する。同時に、中学校は個別の学習支援、英語検定取得のための英語指導員を配置する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,982	13,741	16,014	15,881	17,876
		(b) 予算現額	2,982	12,775	16,014	16,132	16,908
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 966	0	251	▲ 968
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	2,982	12,775	16,014	16,132	16,908
	B. 執行済額		2,982	12,775	15,720	16,132	16,908
	うち交付金充当額		2,300	9,665	12,576	12,906	13,526
	次年度繰越額		-	-	-	-	-
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	98.2%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		嘱託員として英会話指導員5名、英語指導員1名を雇用。英語指導員1ヵ月間と英会話指導員を2ヵ月雇用できなかったため、報酬及び社会保険料の当初予算の968千円減となっている。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H28活動目標(指標)	達成状況					
			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	英会話指導員配置数 小学校:3人、中学校:2人	目標	( 小学校3人 中学校2人 )	( 小学校3人 中学校2人 )	( 小学校3人 中学校2人 )	( 小学校3人 中学校2人 )	( 小学校3人 中学校2人 )
		実績	小学校3人 中学校2人	小学校3人 中学校2人	小学校3人 中学校2人	小学校3人 中学校2人	小学校3人 中学校2人
	英語指導員配置数 中学校:1人	目標	( )	( 中学校1人 )	( 中学校1人 )	( 中学校1人 )	( 中学校1人 )
		実績		中学校1人	中学校1人	中学校1人	中学校1人
達成状況説明	英会話指導員(ALT)を小学校3名、中学校2名、英語指導員1名を配置。小学1年生から中学3年生まで週1時間を英会話の時間として確保し、学級担任とALTとで授業を展開している。小学校は、授業で「ターゲットフレーズ」を設定して、学年段階で系統性のある指導が行えるようにしている。小学生時から「英語に親しむ」事ができ英会話への導入部分において、一定の成果を上げている。中学校では、英語担当教師と連携し、語彙力を増やすことができた。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H28活動目標(指標)		24年度	25年度	26年度	27年度	平成28年度
	【小学校】アンケートで「英会話が楽しい」と答えた児童の割合80%	目標	( )	( )	( )	( 41.57% )	( 80% )
		実績				51.49%	83%
	(中学校) 英語検定3級以上の合格者50名(平成26年度実績53名)	目標	( 50人 )	( 50人 )	( 50人 )	( 27% )	( 50名 )
		実績	35人	52人	53人	43.50%	35名
進捗状況説明	小学校においては、英会話に慣れ親しむための授業が定着しており、児童のアンケートで「英会話の授業が楽しいですか」の項目で、83%児童が楽しいと答え、英会話を身近に感じ、英会話を学ぶ意欲の向上が見られた。更に、英会話に親しむ環境を整え、英語を学ぶ基礎作りに取り組む。中学校においては、3級以上の年間合格者を50名においたが、3級以上の合格者35名と目標に達することができなかった。既に3級以上を取得した者が多数となっており、新たな取得者数が伸び悩んだとみられる。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>小学校では、英会話に親しむ環境作りを整えることで、「英語は楽しい」と児童が感じられ、目標を達成できた。</p> <p>中学校では、英検3級取得者が増加し、受験する意欲はあるが、なかなか合格できていない(英検3級を2年生で取得すると、その後難易度の高い準2級に合格できない状況である)。</p> <p>今年度は、英検受験日が、学校行事と重なり(中体連、体育祭前日)、受験する生徒が減少し、合格者の減少になっている。</p>	<p>課題を克服していくために以下の点から改善が図られるようにする。</p> <p>①小学校での英会話は楽しく授業を行い、日常的に使用するフレーズの会話を繰り返し練習し、定着をはかる。</p> <p>②英検受験への声かけを継続し、学校行事の日程の確認も慎重に行い、受験者数を増やす。</p> <p>③英会話指導員(ALT)や英語指導員を活用し、放課後の時間に英検受験対策を行う。</p>

**今後の取り組み方針**

平成29年度は以下の点で、課題の改善に取り組んでいく。

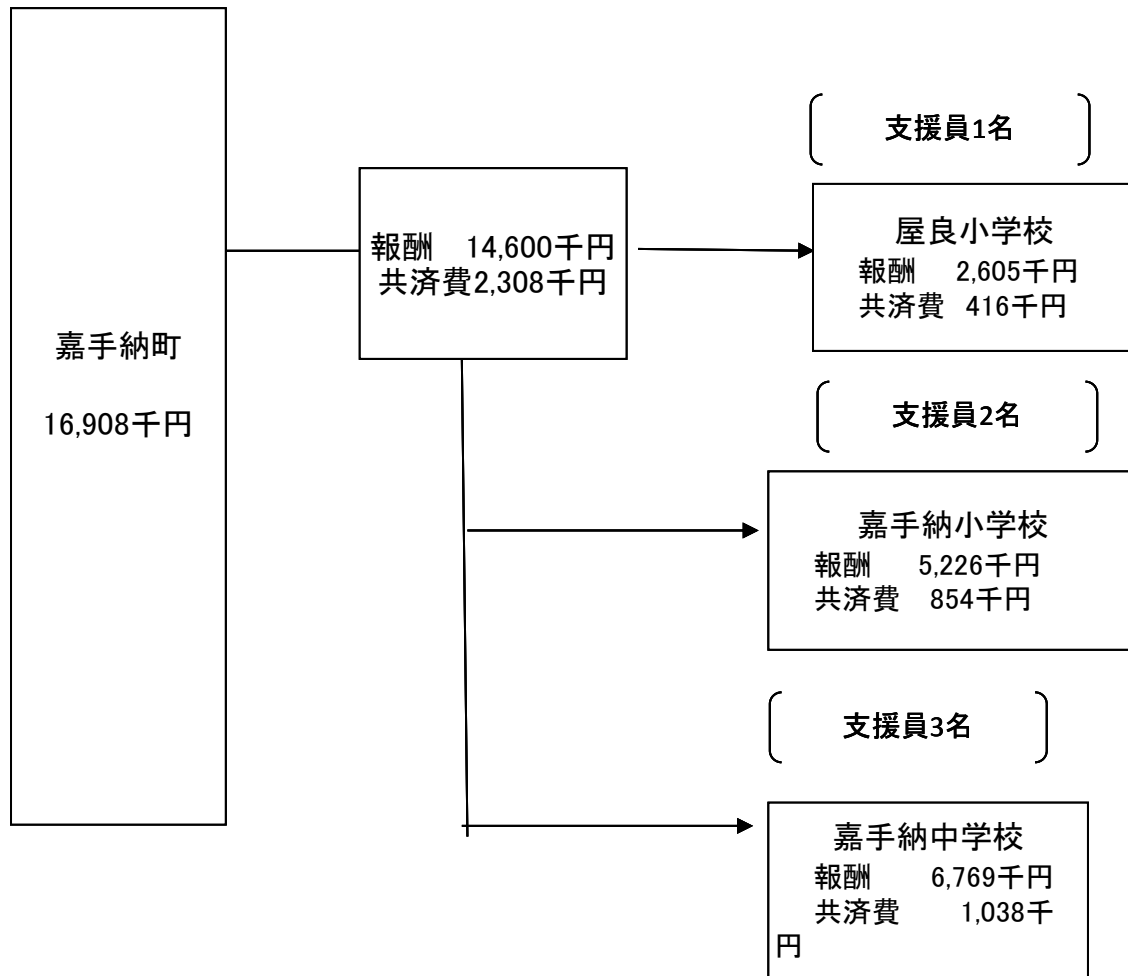
①英会話指導員(ALT)・英語支援員の研修会において「ターゲットフレーズ」の見直しを行い、より学年にあったフレーズにする。日常的に使用するフレーズの会話を繰り返し練習し、定着するまで小学校では6年間継続していけるような学習計画を設定していく。

②英検受験を推奨していくよう英語指導員から声かけを行い、英語担当の教師は学校行事の日程の見直しを図る。

③英会話指導員(ALT)と英語指導員とで協力し、英検受験対策講座を開催し、合格者数の底上げを図る。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
16,908	16,908	13,526	3,382	0



資金の 使途の 流れ、 費目、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は嘉手納町嘱託員設置要綱に基づき採用した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算は嘉手納町特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例施行規則に基づき計上されており、適正であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、報酬と共済費のみであり、支援員配置事業に必要なものに限定されている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



市町村名	嘉手納町						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	ICT活用事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部課名	教育指導課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進	
事業内容	情報活用能力の育成や学校における情報化を推進するため、パソコン、フラッシュ教材、電子黒板を活用した授業支援を行うパソコン指導員を配置する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	<b>予算の状況</b>	(a) 当初予算額	1,773	7,891	7,034	7,050	7,074
		(b) 予算現額	1,773	7,891	7,034	6,113	7,082
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	▲ 937	8
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	1,773	7,891	7,034	6,113	7,082
	B. 執行済額		1,773	7,891	6,908	6,113	7,082
	うち交付金充当額		1,300	6,220	5,526	4,890	5,665
	次年度繰越額		-	-	-	-	-
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	98.2%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		パソコン指導員を本町小学校に2名、中学校に1名を配置し、報酬と社会保険料をそれぞれ執行している。増額は、社会保険料変動のためである。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H28活動目標(指標)	達成状況					
		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	<b>パソコン指導員配置数</b> 小学校:2人、中学校:1人	目標	( 小学校2人 中学校1人 )	( 小学校2人 中学校1人 )	( 小学校2人 中学校1人 )	( 小学校2人 中学校1人 )	( 小学校2人 中学校1人 )
		実績	小学校2人 中学校1人	小学校2人 中学校1人	小学校2人 中学校1人	小学校2人 中学校1人	小学校2人 中学校1人
	<b>達成状況説明</b>	目標	目標	( )	( )	( )	( )
		実績	実績				
<p>パソコン指導員を配置し、PC教室の環境づくりや関連機器の準備を行い、担任がスムーズにパソコンを活用した授業が展開できている。また、電子黒板の活用においても、指導員がアイデアの提供を行い、わかる授業・視覚に訴える授業の展開が図れている。児童生徒の機器操作においても、パソコン指導員が指導の補佐に当たることで、スキルアップにつながる。同時に、教職員のPC操作サポートを行い、校務の効率化につながった。</p>							
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H28成果目標(指標)	基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	28年度	
	<b>【小学校】キーボード検定サイトにおける学年目標級を達成率</b> ①低学年30%②中学年50%、③高学年65%	目標	( )	小学校 3学年23級(80%以上) 4学年17級(60%以上) 5学年8級(40%以上) 6学年初段(20%以上) 中学校 1・2年5~4級 3年3級	小学校 3学年23級(80%以上) 4学年17級(60%以上) 5学年8級(40%以上) 6学年初段(20%以上) 中学校 1・2年5~4級 3年3級	( 達成率 ) 60%	( ①低学年:30% ②中学年50% ③高学年65% )
		実績				56%	①低学年29.2% ②中学年46.2% ③高学年56.1%
	<b>【中学校】パソコン検定の合格率</b> 1,2年:5級~4級 70% 3年:3級80%	目標	( )	【小学校】 3学年31% 4学年35% 5学年4% 6学年5% 【中学校】1・2学年 受検18名 内5級以上 合格13名(72%) 3学年 受検9名 内3級以上 合格7名(78%)	【小学校】 3学年83% 4学年32% 5学年7% 6学年3% 【中学校】1・2学年 受検17名 内5級以上 合格12名(70.5%) 3学年 受検15名 内3級以上 合格12名(80%)	前年度 受検率 3.2%	( 1,2年5級4級70% 3年:3級80% )
		実績				今年度 受検率 1.8%	1,2年:50% 3年:3級80%
進捗状況説明		<p>小学校のパソコン授業において、パソコン指導員を活用して授業を展開した。その際に、児童のパソコン技能の向上を目指して授業を行い、キーボード検定への挑戦している。当初は、検定ソフトの合格に主眼が置かれ、キーボード練習ばかりを授業で実施していたため、パソコンの操作技能や検索に費やす時間がなかったため、授業の重点をシフトチェンジした。そのため、達成率を変更して取り組んでいる。しかし、達成率を変更したが、キーボード練習が不十分で目標に届いていない。中学校においては、実用に応じたタイピングを取り入れ、習得を図り、指導員と担当教師との連携を図りながら、生徒のパソコン技能向上に努めている。中学校の目標に届かない要因としては、検定の対策が十分ではなく、対策する生徒も毎回の参加ではなかったため未達成となっている。</p>					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>①小学校のパソコン授業において、低学年では機器操作に主眼を置いて授業を展開している。そのため、キーボード練習が思うように実施できずに、低学年の「キーボー島」(スズキ楽器の提供するネット上の無料タイピング検定ソフト)の合格率が下がった要因となっている。高学年では、引き続き、「キーボー島」の内容に応じた、合格ラインの見直しの検討が必要である。</p> <p>②中学校ではパソコン検定受検者は増えつつあるが、対策講座を受けて受検する生徒が少なく、講座への出席状況も思わしくない。</p> <p>③パソコン指導員の活用に関して、電子黒板を使用した授業で補助を行い、電子黒板使用の授業頻度を高めていく。</p>	<p>①パソコンの授業の重点でどのような技能を身につけさせるかの見直しを行い、目標を見直す。</p> <p>②パソコン検定の周知を図り、対策講座開講のお知らせを広く行う。</p> <p>③授業補助を行いつつ、教師の事務面のサポートも行う。</p>

**今後の取り組み方針**

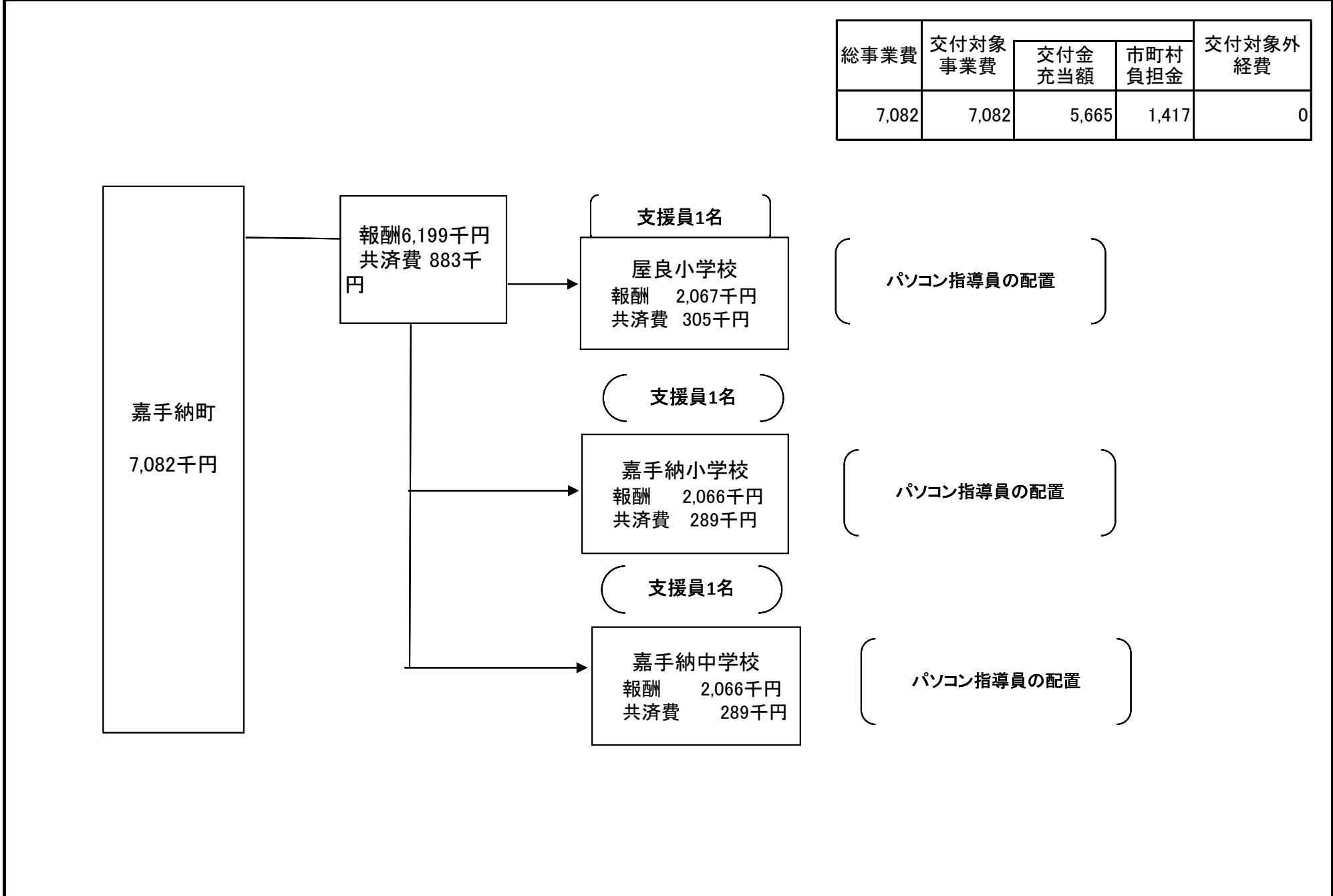
平成29年度の事業においては、以下の点に重点的に取り組む。

①授業で児童生徒の機器操作能力を高めるよう、授業の見直しを行い、パソコン指導員が授業支援を行う。

②「キーボー島」内容を検証し、合格ラインの見直しを行う。

③電子黒板での授業補助で、教師の機器操作能力を高める。また、校務面での補助も行き、事務処理の手助けを行う。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は嘉手納町嘱託員設置要綱に基づき採用した。 ○予算は嘉手納町特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例施行規則に基づき計上されており、適正であった。 ○費目・使途については、報酬と共済費のみであり、支援員配置事業に必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	嘉手納町						
<b>平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	2-④	不登校対策生徒指導支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ	
担当部課名	教育指導課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	不登校の生徒に対し、登校支援を継続的に行うため、中学校へ生徒指導支援員を配置する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	<b>予算の状況</b>		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		(a) 当初予算額	848	3,094	1,977	3,493	3,481
		(b) 予算現額	848	2,461	1,977	3,128	2,589
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 633	0	▲ 365	▲ 892
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	848	2,461	1,977	3,128	2,589
		B. 執行済額	848	2,461	1,764	3,128	2,589
		うち交付金充当額	640	1,940	1,411	3,128	2,071
		次年度繰越額	-	-	-	-	-
		執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	89.2%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明	不登校対策生徒指導支援員を本町内中学校に2名配置し、1名は、2ヵ月未雇用。報酬と社会保険料をそれぞれ12ヶ月分と10ヵ月分執行している。-893千円の不用額は、2ヵ月分の未雇用分と当初週5日勤務で見込んでいた報酬が週4日となった残額である。						
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H28活動目標(指標)	達成状況					
			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	生徒指導支援員配置数 中学校2人	目標	( 中学校2人 )	( 中学校2人 )	( 中学校2人 )	( 中学校2人 )	( 中学校2人 )
		実績	( 中学校2人 )	中学校2人	中学校2人	中学校2人	中学校2人
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績	( )				
達成状況説明	中学校へ2名の支援員を配置し、生活リズムの崩れた不登校生徒へ服装指導や悩み相談を実施して、学級での授業が受けられるように支援を行った。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	28年度
	不登校生徒の出現率3.2%以下 (平成26年度:出現率3.2%)	目標	( )	( 3.3%以下 )	( 3.3%以下 )	( 4.0%以下 )	( 3.2% )
		実績			5.10%	4.00%	3.63%
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	進捗状況説明	生徒とのコミュニケーションを図り、不登校生徒の早期発見・早期対応として、生徒の家庭訪問や巡回指導を行うことで、教師の目の行き届かないところへの支援ができていたが、すべての不登校につながる可能性のある学校を休みがちの生徒をカバーしきれない。特に、病気欠席の理由で学校を休み、結果年間30日以上欠席になる生徒が増えて、目標未達成となっている。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>平成28年度の生徒指導支援員の活動の課題としては、家庭的な状況で学校を休みがちの生徒と問題行動(遊び非行型)での不登校の生徒への対応の二つのパターンに分かれた。そこで、以下のような課題がある。</p> <p>①休みがちの生徒への対応として、担任と連携を図り、家庭への支援を行う。</p> <p>②問題傾向(遊び非行型)の生徒に対して、教室への入室を促す。</p> <p>③担任の先生と連携。</p>	<p>課題の改善の方向性として、以下の点より推進していく。</p> <p>①生徒指導支援員と担任とで家庭への支援、外部機関との連携を視野に入れて取り組む。</p> <p>②生徒指導支援員が徘徊する生徒を見守り、教室への入室を促す。</p> <p>③登校後の早い時間帯に生徒の所在確認を担当と生徒指導支援員が共有し、連携を図る。</p>

**今後の取り組み方針**

平成29年度事業は以下の点を重点的に取り組む。

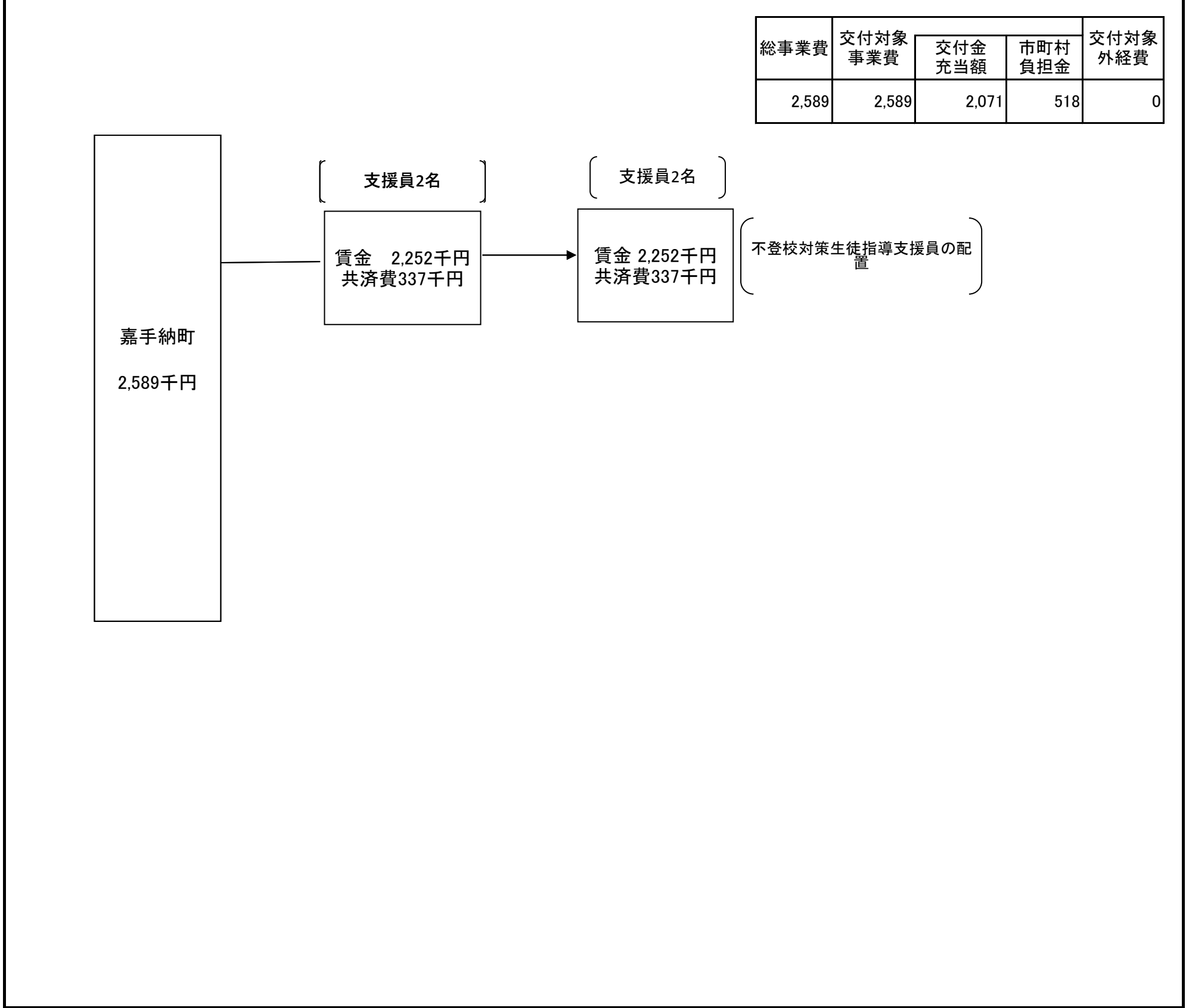
①家庭訪問や登校支援について、外部機関と(青少年センター職員)と家庭に出向く体制を整える。

②問題行動(遊び非行型)の生徒に対して、生徒指導担当と連携を図りながら、学校で受け入れる体制を整える。

③生徒指導支援員も学年配置にして、職員として会議を密に持つようにする。

・不登校生徒、保護者との連絡を取り、つながりを保持するようにする。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
○		支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は嘉手納町臨時職員管理規程に基づき採用した。 ○予算は嘉手納町特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例施行規則に基づき計上されており、適正であった。 ○費目・用途については、報酬と共済費のみであり、支援員配置事業に必要なものに限定されている。
○		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
—		受益者との負担関係は妥当であるか。	
○		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



市町村名	嘉手納町						
<b>平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	2-⑤	スクールカウンセラー活用事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ	
担当部課名	教育指導課	事業実施(予定)年度	平成25~33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進	
事業内容	学校生活や学級集団への不適応や対人関係での問題が生じている児童生徒に対して、教育相談支援を行うため、青少年センターへスクールカウンセラー(臨床心理士)を配置する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,592	2,592	4,954	4,962	
		(b) 予算現額	2,556	2,556	4,973	4,860	
		(c) 増減額(b-a)	▲ 36	▲ 36	19	▲ 102	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	
		A. 計(b+d)	2,556	2,556	4,973	4,860	
	B. 執行済額		2,556	2,556	4,973	4,860	
	うち交付金充当額		2,000	2,000	3,978	3,887	
	次年度繰越額		—	—	—		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		臨床心理士を雇用し、時給3,000円にて1日6時間の勤務。7月に5日間の熊本震災に臨床心理士ボランティアの派遣があり、職専免で対応したため、予算の減額となった。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	スクールカウンセラー配置数:1人		目標 ( 1人 )	( 1人 )	( 1人 )	( 1人 )	
			実績 1人	1人	1人	1人	
			目標 ( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	青少年センターにスクールカウンセラー(臨床心理士)を1日6時間、270日を配置し、児童生徒と保護者の相談業務を行った。相談件数は、実人数で174名であった。児童生徒の行動観察や児童生徒への支援体制の検討を実施。適応教室の児童生徒においては、適応教室相談員に対する助言や直接のカウンセリングを行った。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H28成果目標(指標)		基準値(平成27年度)	25年度	26年度	27年度	28年度
	児童生徒の総欠席日数の減 平成28年度 屋良小学校1,800日 嘉手納小学校3,400日 嘉手納中学校3,500日		目標 ( 屋良小学校1,998日 嘉手納小学校3,514日 嘉手納中学校3,691日 )	( )	( )	( )	( 屋良小1,800日 嘉手納小3,400日 日嘉手納中3,500日 )
			実績				屋良小1,575日 嘉手納小3,326日 嘉手納中3,579日
	【参考指標】 平成26年度~27年度 サポートした児童生徒等の学校生活への 適応や学校復帰等改善が確認できた人数: 3人		目標 ( )	( 10人 )	( 3人 )	( 3人 )	( )
			実績	3人	23人	27人	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内で支援を必要としている児童生徒の保護者と年度末に面談を行うことで、幼稚園から小学校、小学校から中学校へと情報の引継ぎができ、早期に進学先と連携し、学校と保護者をつなげることができた。</li> <li>・児童生徒の保護者と継続して面談を行うことで、保護者の児童生徒に対する理解を深めることができた。</li> <li>・関係機関と連携を図り、情報交換しながら間接的に支援することができ課題改善につながった。</li> <li>・支援方法に行き詰まりを感じている保護者や教職員に対しては、対象児童生徒の行動観察や知能検査を実施し、具体的な支援方法を模索することができた。支援を実施することが子どもの学習面や行動面でよい変容が見られた。</li> <li>・中学校においては、学校を休みがちの生徒が多く、総欠席日数を減らす取組を行ったが、病気を理由に欠席するため、目標が未達成となった。</li> </ul>						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>①平成28年度は、保護者との連携が難しいケースの場合、支援に行き詰まる事が多く保護者との関係に築いていくかが課題。</p> <p>②学習意欲の低い生徒への対応に関して、どのように意欲を上げ維持していくかということに苦慮した。学習支援を受けている生徒の習熟度に合わせた課題確保が必要。</p> <p>③非行傾向にある生徒に対して生活指導が優先になり、学習への取り組みが後回しになる。学習への取り組みまで持つて行くには、時間がかかる為、学校と連携し、早めに不登校支援に介入できるようにする。</p> <p>④受験を控えた中学3年生の受け入れが多く、卒業後の支援も課題である。高校に登校できているか。困っていることはないかなどの声かけを定期的に行なう。</p>	<p>町内の児童生徒へのサポート体制構築として以下の点から改善を試みる。</p> <p>①保護者との連携が難しいケースについては、根気強く教育相談の機会を持ち関係構築を目指す。</p> <p>②進学についての相談を持ち、必要に応じて学力についての不安を取り除くサポートを実施する。</p> <p>③学校への訪問相談を実施し、児童生徒の現状を把握し、不登校も未然防止への教育相談を実施する。</p> <p>④将来に対する不安や進学に対する不安から非行傾向にある生徒への進路相談や、場合によっては適応指導教室への通級を促し、不安の解消へのサポートを実施する。</p> <p>④友人関係や人間関係での不安に対するサポート。</p>

**今後の取り組み方針**

充実した教育相談活動を実施するため、平成29年度は以下の点から取組を行っていく。

①電話相談、窓口相談等も充実させ、困り感を抱える児童生徒、保護者へ幅広く対応していくようにする。

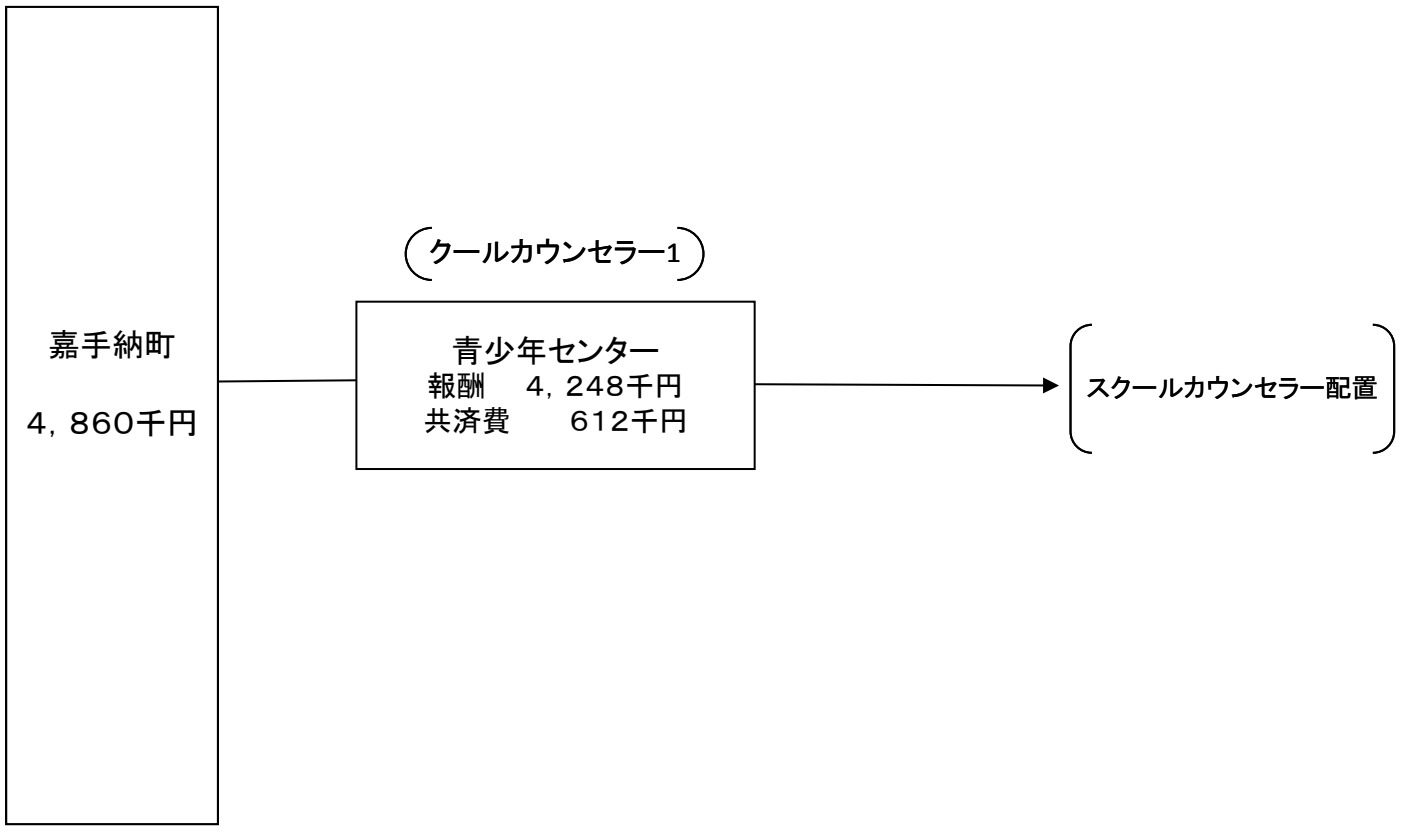
②学力についての不安を取り除くサポートとして、各学校の定期訪問や要請訪問を活用して、学力に不安を抱える児童を小学生の間で対応するよう、学級担任と連携して相談業務を実施する。

③進学、将来に対する不安へのサポートとして、上記同様訪問相談を実施して取り組む。

④キャリアカウンセリングを実施し、なりたい自分、なれる自分をイメージできるような支援を行っていく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
4,860	4,860	3,887	973	0



資金の流 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は嘉手納町嘱託員設置要綱に基づき採用した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算は嘉手納町特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例施行規則に基づき計上されており、適正であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、報酬と共済費のみであり、支援員配置事業に必要なものに限定されている。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 嘉手納町

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名 2-⑥ 秋田交流学习体験事業 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 第3章-5-(3)-ア

担当部課名 教育指導課 事業実施(予定)年度 平成26~30年度 沖縄振興基本方針該当箇所 確かな学力を身につける教育の推進 III-3-(1)

事業内容 児童生徒が教育先進地である秋田県大館市の学習規律を学び、教師は指導法や授業作りについて学ぶため、交流学习体験を行う。また、秋田県の授業の実践や授業改善等の研修を行うため、大館市の教師を招聘する。

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ( )

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	3,443	3,985	3,814		
		(b) 予算現額	3,443	2,862	2,853		
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 1,123	▲ 961		
		(d) 繰越額	—	—	—		
		A. 計(b+d)	3,443	2,862	2,853		
	B. 執行済額		3,077	2,862	2,853		
	うち交付金充当額		2,461	2,289	2,282		
	次年度繰越額		—	—	—		
執行率(%) (B/A)		89.4%	100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		委託料を入札にて執行。不用額は、961千円の入札残によるものである。					

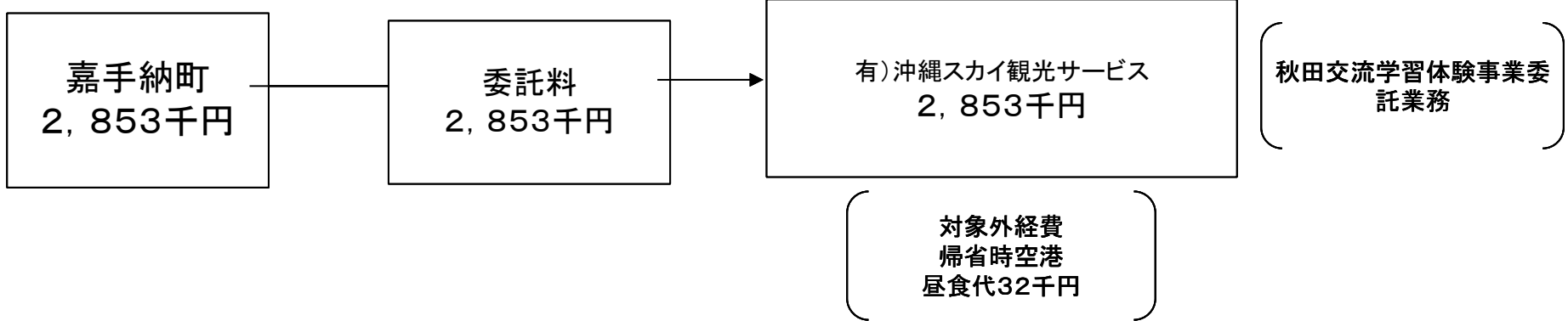
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
秋田県からの招聘・教師 3名	目標	( 児童生徒及び教諭の派遣 )	( 実施 )	( 実施 )	( )
	実績	児童生徒及び教諭の派遣	実施	実施	
秋田県への派遣・児童生徒 20名・教師 10名	目標	( 児童生徒及び教諭の派遣 )	( 実施 )	( 実施 )	( )
	実績	児童生徒及び教諭の派遣	実施	実施	
	目標	( )	( )	( )	( )
	実績				
達成状況説明	小中学生20名・教師10名を秋田県へ派遣。3日間授業を体感し、学びを生かし、各学校へ伝達。アンケート結果によると小学校、中学校とも学校の授業について「わかりやすい」「楽しい」「みんなが意見を出し合い、皆が自分の意見を認めていると思う」との質問項目で、7月と12月の調査で変容を比較するといずれもよい方向で伸びている。秋田の授業が教師の指導と生徒の学習に対する意欲に波及している。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
			授業改善・指導法の工夫を図っている教師の割合(交流後の報告会、公開授業後に意識調査を実施)	目標	( )	( 小学校37% 中学校26% )	( 60%以上 )
		実績		小学校34.5% 中学校31.5%	66%	93%	
	・思考・判断・表現を育む言語活動の充実に努めている教師の割合90%以上(教職員へのアンケートを実施)	目標	( )	( )	( 小学校50% 中学校55% )	( 90%以上 )	( )
	実績			小学校59.6% 中学校48.7%	86%		
進捗状況説明	秋田県へ児童生徒20名、教師10名を派遣し、学習方法の習得に取り組んだ。習得した学習技法などを実践、報告を行なった。各学校では報告書を作成し、学力向上推進報告会において、派遣された児童生徒、教師の関係者を招いて実践報告を行った。また、派遣された児童生徒は、持ち帰った内容を学校朝会などを通し広く啓発及び周知した。教師は、秋田の授業を意識することで改善がはかれた。小学校児童は、周知活動を通し、啓発され、自分の考えを発表することができた。教師の授業改善においては、交流によって教師の意識が改善された。しかし、言語活動については、児童生徒の発表や話し合い活動の実施について、教師の指導の技術が定着しておらず、目標を達成することができなかった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	平成28年度実施した秋田県大館市との学習体験事業において、嘉手納町で勤務する教職員の授業における課題が明らかとなった。課題として、以下の点があげられる。 ①児童生徒にじっくりと課題に取り組ませる時間の確保。 ②教師の授業構想や板書計画が大雑把である。 ③教師の説明は要点を得て、短く端的にできていない。 ④児童生徒が解いてみよう、やってみようとする課題の与え方ができていない。 ⑤児童生徒の発表場面が少ない。 ⑥話し合い活動の指導の技術が教師に定着していない。	秋田県大館市で勤務する教師の事例を基に課題の改善に取り組む。 ①授業で児童生徒の考える時間を確保する。 ②教師の説明する時間〇〇分。児童生徒が考える時間〇〇分というように授業構想を持つ。 ③教師の説明する内容をシナリオ化する。 ④課題の提示の仕方について、見せ方や出すタイミングを工夫する。 ⑤児童生徒の発表する場面や話す場面を多く作り出す。 ⑥話し合い活動の型を示して、児童生徒に話し合いの仕方が定着していくようにする。
<b>今後の取り組み方針</b>		
平成29年度は、以下の点を重点的に取り組む。 ①タイマーを活用して、児童生徒の考える時間を確保する。 ②時間配分を考え、授業を構想して、黒板に何を書くのか、どのように配置するのかを構想する。 ③マイノート(教材研究ノート)を作り、授業でのシナリオとする。 ④課題を工夫して、今までよりもちょっと難しくしたり、見せ方を工夫することで、児童生徒の興味・関心を引きつけて、授業での意欲を高めていくようにする。 ⑤発表での型を示して、こんなときはこう発表するというように見本を見せて、発表できるようにする。 ⑥話し合い活動を授業の中に取り入れ、話し合いの手順を確認して実践化を図る。		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,885	2,853	2,282	571	32



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は入札により選定している。 ○予算規模は業者より見積を徴し、計上したものであり、適正である。 ○費目・用途は事業目的に即し、移動や宿泊等の必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



市町村名	嘉手納町						
<b>平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	2-⑦	学校ICT機器整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部課名	教育指導課	事業実施(予定)年度	平成26~28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	ICT機器の活用を図り、魅力的でわかりやすい授業展開・効率的な知識の習得に繋げるため、デジタル教科書を整備する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	<b>予算の状況</b>	(a) 当初予算額	59,613	3,866	1,753		
		(b) 予算現額	33,067	3,551	1,657		
		(c) 増減額(b-a)	▲ 26,546	▲ 315	▲ 96		
		(d) 繰越額	—	—	—		
		A. 計(b+d)	33,067	3,551	1,657		
	B. 執行済額		33,067	3,551	1,657		
	うち交付金充当額		26,453	2,840	1,325		
	次年度繰越額		—	—	—		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		入札による予算執行、事業内容は、すべて実施した。不用額96千円は、入札の残額によるものである。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H28活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	デジタル教科書整備の実施 ・整備学年:中学校1~3年 ・教科:国語(書写含む)、数学、理科、社会(地図含む)、音楽、技術家庭、美術 ・学校数:1校	目標	( 電子黒板64台 実物投影機55台 )	デジタル教科書整備実施	デジタル教科書整備実施		
		実績	電子黒板64台 実物投影機55台	デジタル教科書整備実施	デジタル教科書整備実施		
			目標	( )	( )	( )	( )
		実績					
達成状況説明	町立中学校にデジタル教科書を全学年に国語、数学、社会(地理、歴史、公民、地図含む)、理科、音楽、美術、技術・家庭を導入。教師が各教科で生徒のわかりやすいように授業で活用できた。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	アンケートで「授業がわかりやすくなった」と答えた生徒の割合65%	目標	( )	( 整備率100% )	( 65% )	( 65% )	( )
		実績		整備率100%	93.60%	84.6%	
			目標	( )	( )	( )	( )
			実績				
進捗状況説明	日常的なICT機器を活用する授業を展開した。授業の中でクラス全員が視覚的に共有して確認を行い、言葉だけではない授業が行えた。その結果、授業がわかりやすいと認識した生徒が増えた。2月にアンケートを実施した結果、「学校の授業はわかりやすく、楽しいと思う」が84.6%の結果となり、学習意欲が高まった。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>平成28年度町内の中学校にデジタル教科書を導入し、生徒の学習意欲は向上している。アンケートで、「学校の授業はわかりやすく、楽しい」と思う生徒は、84.6%いて目標は達成している。しかし、「学校の授業はわかりやすく、楽しい」と思わない生徒は約16%おり、さらに理解を促す必要がある。</p> <p>①デジタル教科書の見せ方の工夫。 ②デジタル教科書の内容を部分的に拡大する。 ③わからない箇所を生徒に示させる。</p>	<p>デジタル教科書導入の意図は、拡大して説明したり、操作したりすることで、授業がわかりやすくなるのがねらいである。以下のように改善に向けていく。</p> <p>①教師の説明の中で大切な部分のみを拡大する。 ②教科書としてデジタル教科書を活用するのではなく、部分的に強調したい場面を作る。 ③生徒にも操作させ、わかりやすくなるような提示を工夫する。</p>

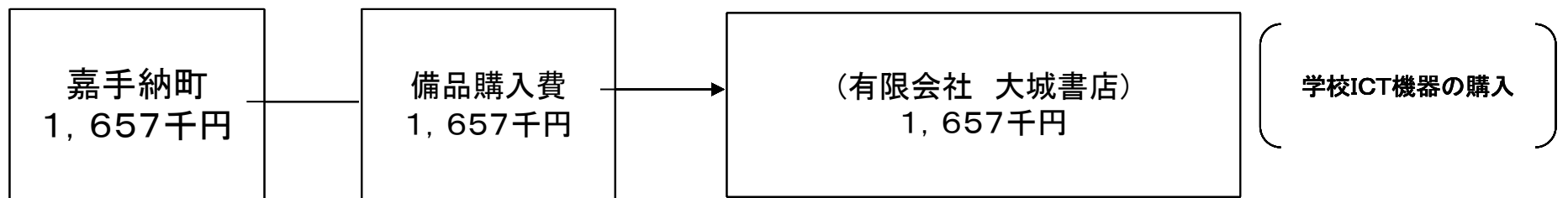
**今後の取り組み方針**

今後のデジタル教科書の活用については、以下の点から取り組んでいく。

①大きく見せることが重要なので、どこを、どのくらい大きくするのか見え方はどうかを検証しながら、デジタル教科書を活用する。  
②説明するポイントを絞り、拡大して見せる、強調する場面を色分けする。  
③生徒にどこがわからないのか、どのようにすれば問題が解けるのか示させたりしながら、生徒にも操作させて、わかりやすい授業を作り上げる。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,657	1,657	1,325	332	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○購入業者は入札により選定した。 ○予算は業者より見積を徴し、入札により決定した。 ○費目・用途はICT機器購入事業の目的に沿った支出であり適正であるとする。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	嘉手納町						
<b>平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	2-⑧	特別支援教育支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ウ	
担当部課名	教育指導課	事業実施 (予定)年度	平成28~33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	時代に対応する魅力ある学校づくりの推進  Ⅲ-3-(1)	
事業内容	障害を持った子や発達が気になる子などの特別な支援を要する児童生徒に対し、身辺自立の介助や対人関係の手助け等の個に応じたきめ細やかな支援を行うため町内小中学校に特別支援教育支援員(教育サポーター、介助員)を配置する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	<b>予算の状況</b>	(a) 当初予算額	40,292				
		(b) 予算現額	30,530				
		(c) 増減額(b-a)	▲ 9,762				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計(b+d)	30,530				
	B. 執行済額		30,530				
	うち交付金充当額		24,423				
	次年度繰越額		—				
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		小中学校において報酬、賃金、共済費が執行されているが嘱託員(教員等資格取得者)の雇用総数14名(一部中途採用、退職者あり)、賃金職員(教員資格等無資格者)雇用総数17名(一部中途採用、退職あり)、共済費加入総数29名(雇用期間が短いため、途中退職者1名未加入、賃金職員から嘱託員職員の1名途中変更あり)。予算現額の減は、未雇用期間があったため、賃金及び共済費の不用額である					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	特別支援教育支援員配置数 小学校16名、中学校7名	目標	( 小学校16人 中学校7名 )	( )	( )	( )	
		実績	小学校23人 中学校8人				
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	小学校に支援員を(雇用総数)23名、中学校8名の支援員を配置し、41名の児童生徒に対し、授業等、学校生活におけるリズムを整えさせ、学校生活におけるコミュニケーションや学力の習得するための環境づくりの支援をすることができた。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	31年度
	支援対象児童生徒数:25名	目標	( )	( 25人 )	( )	( )	( )
		実績		41名			
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	進捗状況説明	支援員を配置することにより、対象児童生徒が学校生活を送ることができている。さらに、対象の児童生徒が安心、安全な学校生活を送ることができるよう支援することにより、学力を習得し、環境を整えることで安心して学校生活に順応できた。学校での授業や学校生活に理解できない分野(苦手な部分)を補うことで、学校での学習に意欲を持つことができた。学校に居場所を作り、社会生活のリズムを習慣化し、自立する支援をすることができた。					

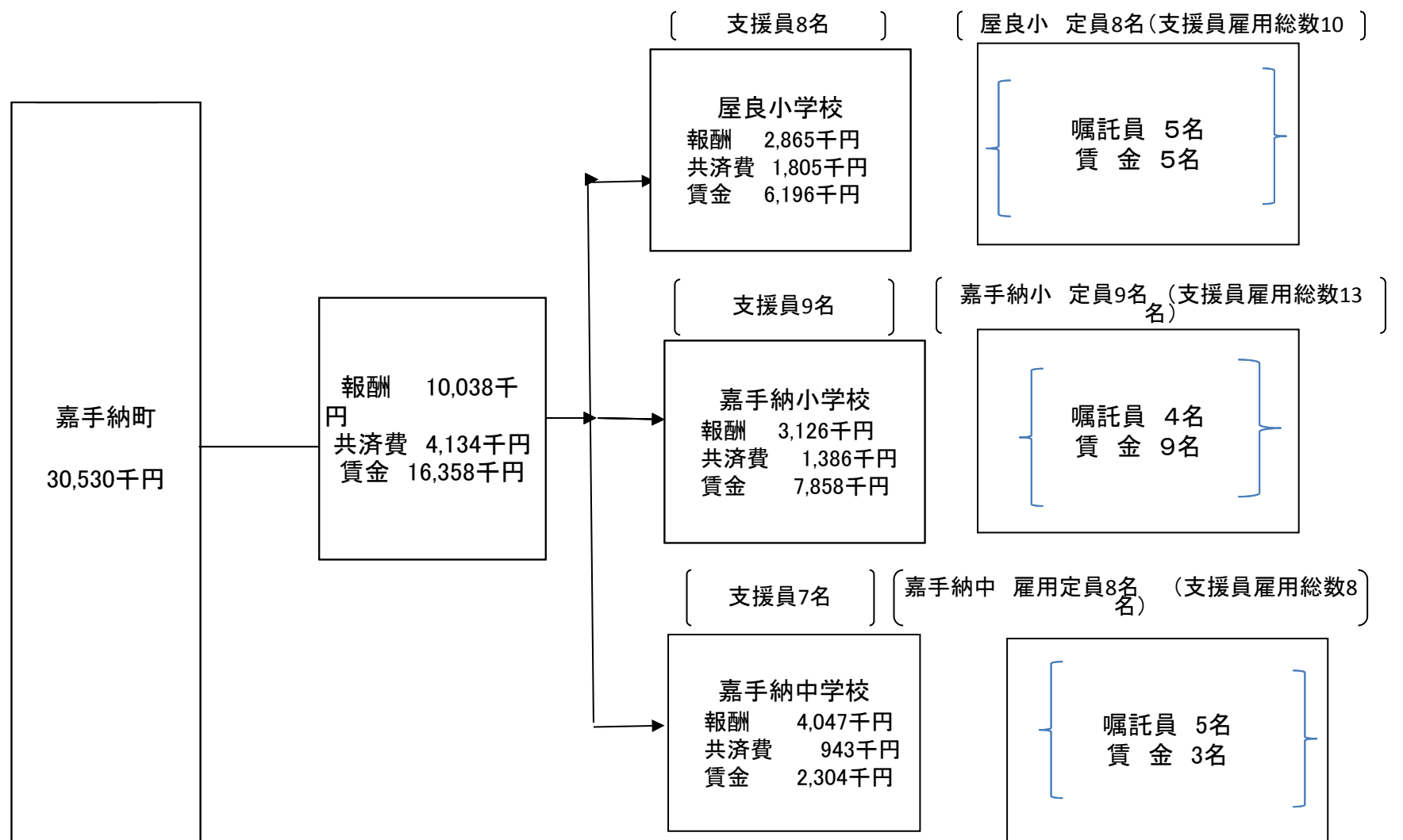
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	平成28年度では、発達に遅れのある児童生徒は、生活面や学習の場面において支援が必要な状態である。また、発達に遅れのある児童生徒は、学習内容の習得に深刻な問題を抱えるため、学習を含めた支援を行うことを視野に入れ、教員免許状保持者による生活支援・学習支援を行いたい。義務教育の期間に学校生活の支援を十分に行うことにより、社会的自立に向けた力を備えることができるよう支援したい。	対象児童生徒に対し、今後は以下の視点により支援を行っていく。 ①安心・安全に学校に登校できるような支援。 ②学校生活に困らないような支援。 ③学習支援も行い、自己有用感を持たせる支援。

**今後の取り組み方針**

対象となる児童生徒の抱えている課題を軽減できるよう支援体制を充実させ、対象児童生徒の学校生活の満足度を向上させる。教員免許取得者を増員し、学習面での環境を整えることにより、意欲の向上を促進できる体制を整えながら自信を身につけさせ、社会生活力を伸ばし、対象児童生徒の特性を本人自身が理解して、物事に対処する術を身につけるよう支援する。支援員の研修を充実させ、発達による困り感に対応できる支援員の支援強化を図る。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
30,530	30,530	24,423	6,107	0



資金の用途の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は嘉手納町嘱託員設置要綱に基づき採用した。 ○予算は嘉手納町特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例施行規則に基づき計上されており、適正であった。 ○費目・用途については、報酬、賃金、共済費のみであり、支援員配置事業に必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

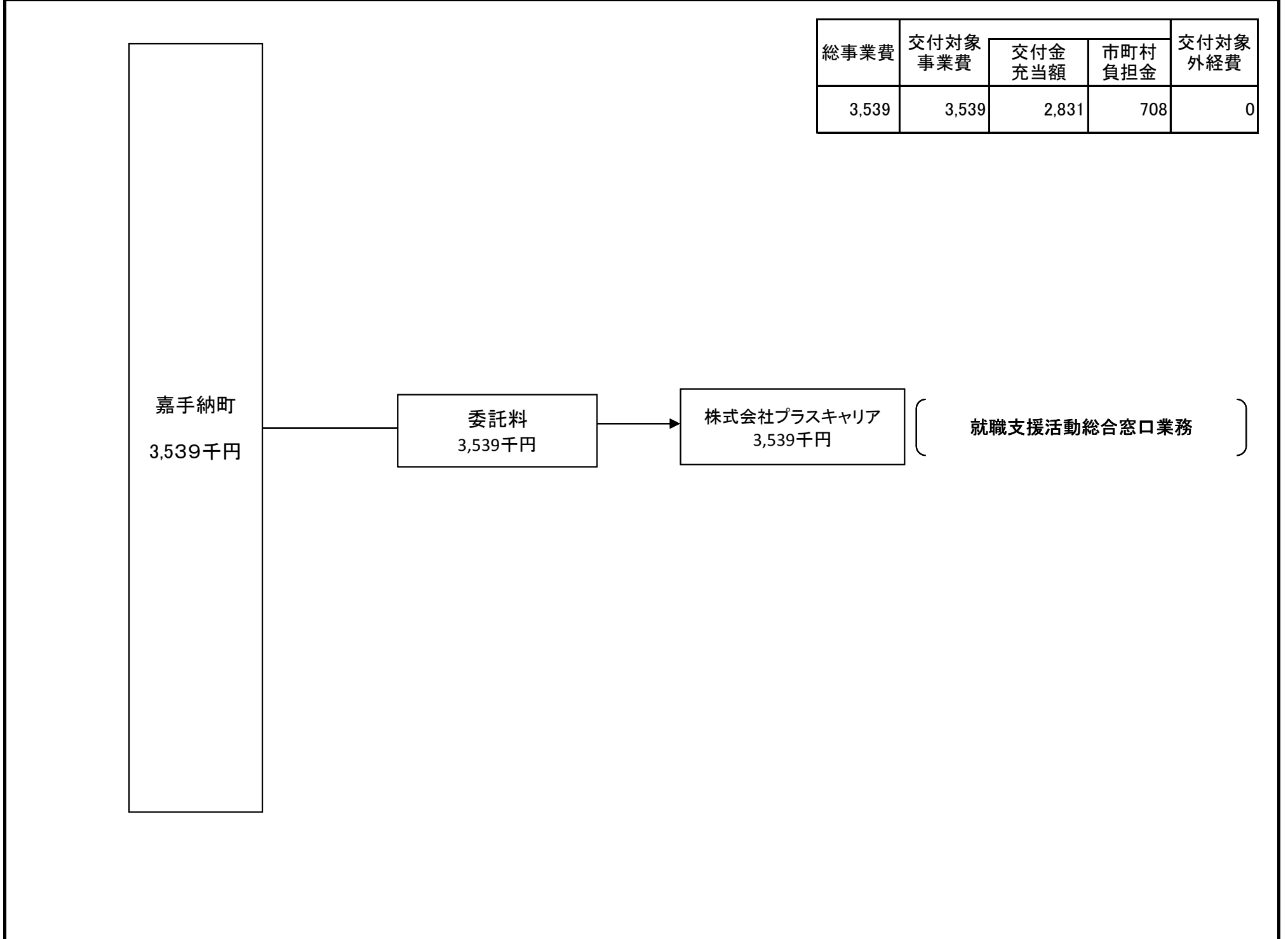


市町村名	嘉手納町						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	雇用促進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(10)-ア	
担当部課名	産業環境課	事業実施(予定)年度	平成25~29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	雇用機会の創出・拡大と求職者支援 Ⅲ-2	
事業内容	雇用情勢の改善に向け、就職相談窓口を開設し、求人・求職者を結ぶ就労支援を行い、求職者へ就職意識の高揚と事業者の雇用拡大に繋げる。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 繰越額 A. 計 (b+d)		3,633	3,864	3,864	3,609	
			3,633	3,864	3,557	3,539	
			0	0	▲ 307	▲ 70	
			3,633	3,864	3,557	3,539	
	B. 執行済額		3,632	3,838	3,557	3,539	
	うち交付金充当額		2,905	3,070	2,846	2,831	
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	99.3%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		チラシ製作に係る印刷製本費を当初12回分で組んでいたが、広報誌へ折り込む回数の積算を誤っていたため、10回分へ契約金額を変更した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	相談窓口開設(毎週火・金曜日):100回		目標 ( 99回 )	( 98回 )	( 97回 )	( 100回 )	
			実績	99回	97回	97回	98回
	セミナーの開催(毎週金曜日):50回		目標 ( 49回 )	( 51回 )	( 50回 )	( 50回 )	
			実績	49回	51回	49回	49回
達成状況説明	契約締結日が当初予定していた4月1日より遅れたため、相談窓口については当初予定していた100日の開所から4月の1週(2回分)少ない98日開所した。また、セミナーについても同様に、当初予定していた50回の開催から、1週(1回分)少ない49回の開催となった。 しかし、週2回の相談窓口と、週1回の就職セミナーを開催することにより、求職者への就業に関する教育等が図られ、就業促進に結びつくことができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	相談人数:100人		目標 ( )	( 相談人数:200人 )	( 相談人数:100人 )	( 相談人数:100人 )	( )
			実績	相談人数:399人	相談人数:230人	相談人数:177人	
	就職人数:2人		目標 ( )	( 就職人数:50人 )	( 就職人数:2人 )	( 就職人数:2人 )	( )
			実績	就職人数:46人	就職人数:9人	就職人数:14人	
	進捗状況説明	・平成26年度までは、他市町村在住者も含めた目標を設定していたが、本町としての目標は、本町の完全失業率を県平均より下回る結果を出すことであるため、平成27年度より事業の成果目標を本町在住者の数へと変更している。そのため、平成27年度からは目標及び実績ともに下方修正している。 ・相談人数については、目標値を上回り達成することができた。また、279名の相談者のうち、町民は177名となっており、相談者の半数以上は町民となっている。 ・相談窓口日数、セミナー開催回数ともに、予定よりも契約締結が遅れたため、当初開催予定だった回数よりも、相談窓口日数は2日、セミナー開催回数は1回少ない実施となった。 ・セミナー参加者は全体で153名うち町民が52名参加している。 ・就職人数は全体で25名うち町民が14名就職している。 ・町内企業や近隣市町村企業の求人情報を相談窓口の案内掲示板へ掲示、及び町内公共施設へのチラシ設置、HPの定期的な更新等、町民に対する周知の充実を図ったため、より多くの町民に事業の周知をすることができ、相談者や受講者実績が当初の目標数値を上回ったと考える。 ・引き続き相談窓口の開所とセミナーを開催し、求職者の支援を行う。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>平成28年度も継続して、全国に比べ失業率の高い沖縄において雇用情勢の改善を図るため相談窓口の開所およびセミナーの開設を行った。</p> <p>相談者の傾向として、来所する年齢層が、昨年までは40代以上の中高年層が多かったことに対し、20代や30代の若年層も増えていることから、窓口開設の認知度が高まっていることが確認できた。</p> <p>平成28年度の相談内容は、適職選択の仕方や求職活動の仕方等、就職活動の基礎となる部分の相談が昨年に引き続き大多数であった。また、面接練習や自己PRの仕方、履歴書・応募書類の書き方等の具体的な相談も前年同様増えている。さらに、子育て(介護)と仕事の両立の難しさ、障がいを抱えていることでの就活への不安、自身の年齢と希望する職種のマッチングに関する不安といった生活環境の悩みや求人と求職のあつせんを求める声等、就労に関する様々な現状を前年度同様に確認することができた。</p> <p>求職者の生活環境が多様化しているため、求職者の就労に関するニーズと事業者の求人がミスマッチであることが継続しての課題だと考える。</p> <p>相談窓口の設置について認知度が高まっているためか、町内に所在する企業から求人の掲載依頼についての問い合わせも増えている。</p>	<p>引き続き、週2回の相談窓口の開所及び週1回のセミナーの開設を行うとともに、多様化する求職者の就労に関するニーズを把握するためアンケート調査、相談内容や後追い調査を分析し、求職者のニーズを把握し、そのニーズに対応できるよう窓口の設置内容や、セミナー内容を随時検討していく必要がある。</p> <p>職のあつせんを希望する声もあるため、今後も求職者にアンケート調査を行い、調査結果によっては職あつせんを検討する必要があると考える。</p> <p>求職者と事業所のミスマッチを改善する為に、より多くの求人情報を収集する必要があると考える。</p> <p>より多くの求職者を支援するためにも、周知活動を充実させる必要があると考える。</p>

今後の取り組み方針	
<p>今後も継続して週2回の相談窓口及び週1回のセミナーを実施し、求職者の就労に関する悩みや共通して抱える課題を解決するための支援を行う。また、引き続きアンケート調査を行い、求職者のニーズ及び職あつせんの必要性を分析する。</p> <p>広報へのチラシ折込やハローワークでのチラシ設置の他、子どもの貧困問題等に関する機関の窓口等にもチラシを設置することにより、周知活動の充実を図る。また、企業の求人情報も引き続き募集する。</p>	

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託先は、相談員が変わることで相談者の不安を増す恐れがあると判断し、前年度と同じ事業者と随意契約を行った。なお、価格の妥当性を確認した結果、最低価格だったため妥当だと考える。</p> <p>○予算規模に関しては2社以上から見積もりを徴収し、比較検証し最低価格だったため妥当だと考える。</p> <p>○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	嘉手納町						
<b>平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	4-①	廃棄物リサイクル事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(2)-ア	
担当部課名	産業環境課	事業実施(予定)年度	平成25~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	3Rの推進	
事業内容	本町が策定する一般廃棄物処理基本計画の推進を図り、リサイクルを促進しながら町全体の美化を図るため、本町で排出されている草木を回収、チップ化し再資源化する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	<b>予算の状況</b>	(a) 当初予算額	16,072	50,214	15,491	13,397	
		(b) 予算現額	16,072	50,214	11,374	11,843	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 4,117	▲ 1,554	
		(d) 繰越額	—		—		
		A. 計(b+d)	16,072	50,214	11,374	11,843	
	B. 執行済額		16,072	44,195	11,374	11,842	
	うち交付金充当額		12,857	35,356	9,099	9,474	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	88.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容に対象外経費が含まれており1,555千円の差額が発生した。事業は計画とおりすべて実施し、執行した。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	草木の回収及び再資源化(チップ化)の実施	目標	( 木くずの再資源化 )	( 木くずの再資源化 )	( 木くずの再資源化 )	( 実施する )	
		実績	木くずの再資源化(チップ化実施)	木くずの再資源化(チップ化実施)	木くずの再資源化(チップ化実施)	実施した	
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	草木の回収をしチップ化(再資源化)することにより一般廃棄物15.3%削減となった。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H28成果目標(指標)		基準値(24年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	・平成28年度 草木の再資源化(チップ化)量 約600t	目標	( 一般廃棄物処理量4,444tを基準とする減量化 )	( 一般廃棄物 約5%削減 )	( 一般廃棄物 5%削減 )	( 600t )	( )
		実績		草木の搬入量(100%減)	一般廃棄物 6.4%削減	686t	
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	進捗状況説明	草木の再資源化においては、平成28年度は作業場を整備し、公共事業の草木もすべて受け入れることができた為、平成27年度より276t多く、また目標値より86t多い合計686tを、すべてチップ化とし処理することができた。					

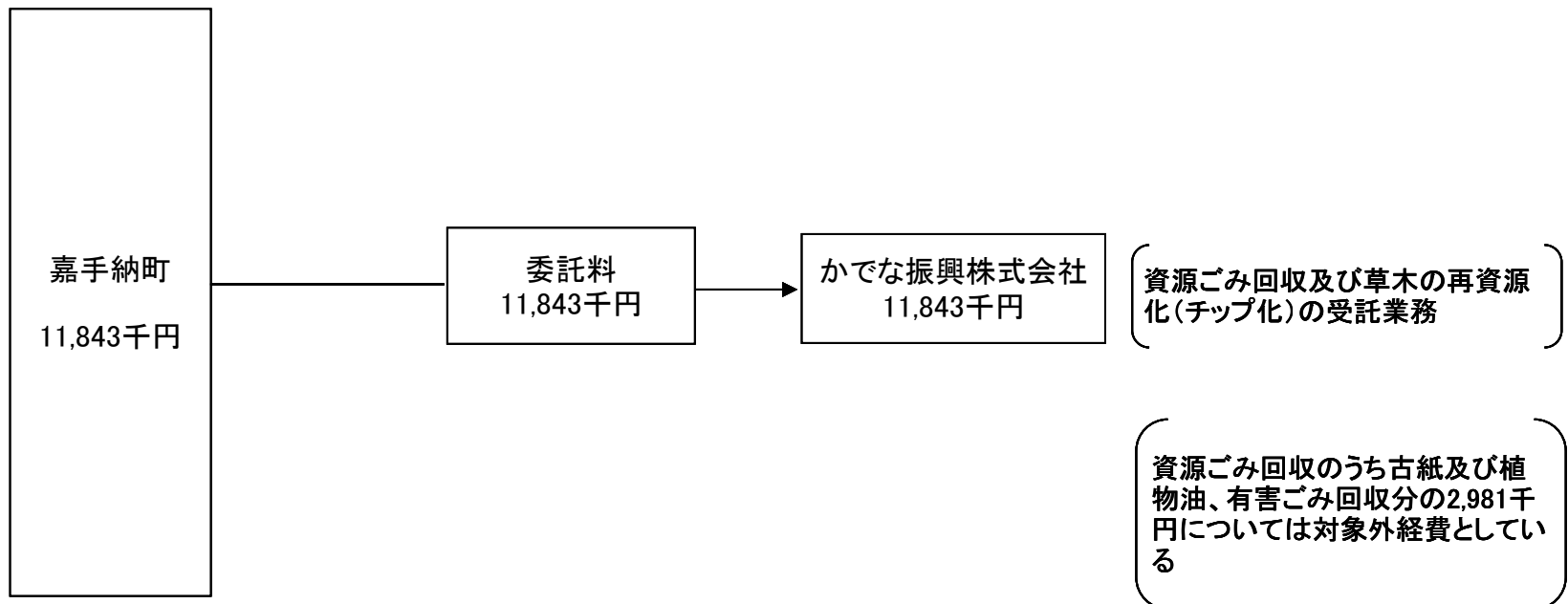
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>町民へ草木のリサイクルの推進を行い、回収した草木はすべてチップ化し、リサイクルすることができた。しかし、まだ町民の中ではリサイクルせずに、少量の草木に関しては、燃やせるごみとして廃棄している現状がある。また、これから多くの町民が農園等で、チップを、より活用できるように、チップの品質向上に努めていく必要がある。</p>	<p>一般廃棄物処理量の再資源化については少量の草木についてもリサイクルで処理できるよう更なる周知等の取り組みを行っていく。併せて、今後、農園等でチップをリサイクルしやすいように、EM入りのチップ等で品質向上を検証し、町民への提供を行っていく。</p>

**今後の取り組み方針**

今後、広報及びホームページで、より一層、一般廃棄物処理基本計画に伴う、適正な廃棄物処理とチップの提供について周知を行う。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,824	11,843	9,474	2,369	2,981



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、随意契約であるが、長年、廃棄物リサイクルの草木のチップ化(破碎)以外にも本町の草木の収集運搬を行っており、長年の経験や実績により町の公衆衛生上問題なく業務の遂行を行えていて妥当である。 ○費用・用途についても目標達成に必要なものなのか等について額の確定時において支出等の書類で確認しており、適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

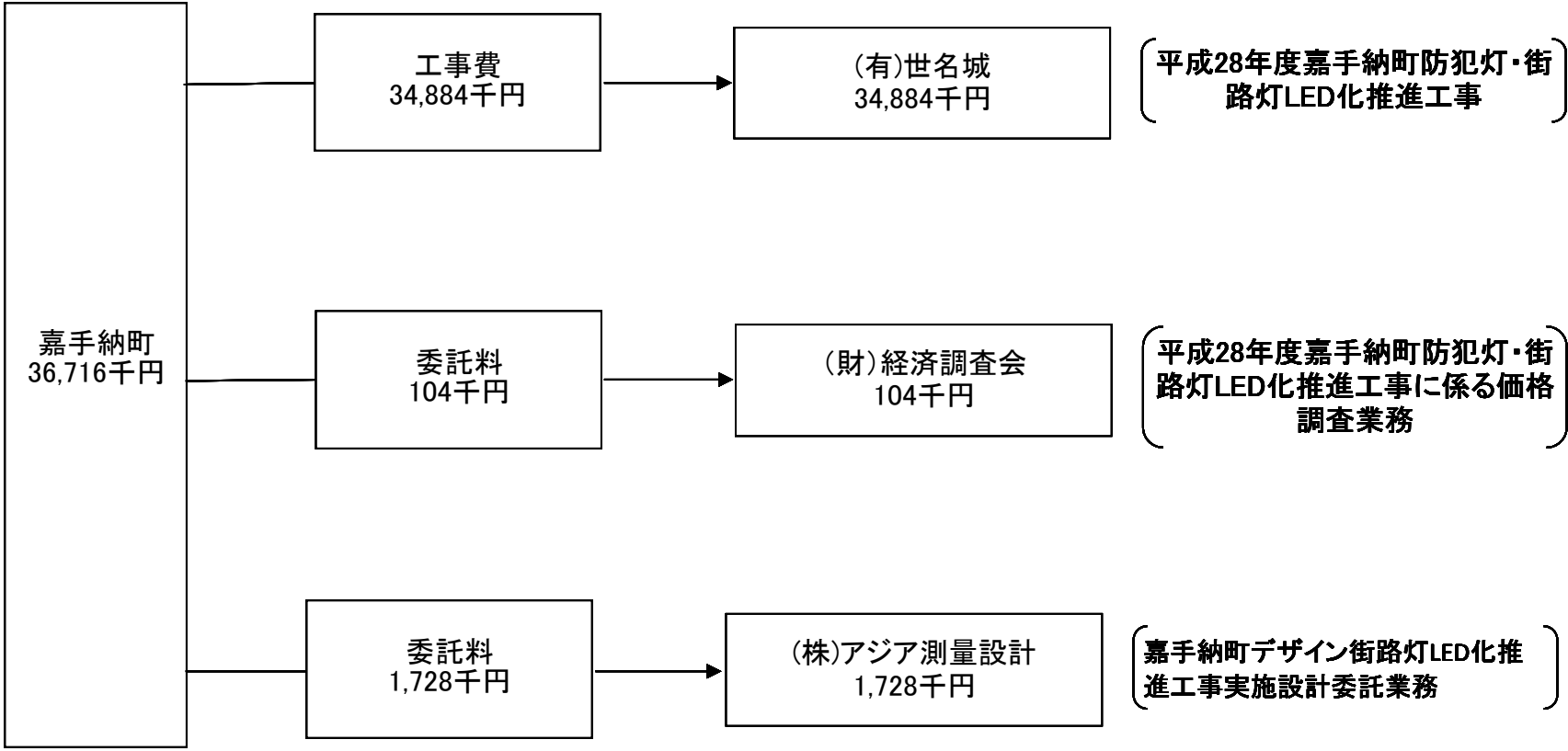


市町村名	嘉手納町						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	嘉手納町防犯灯・街路灯LED化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-ア	
担当部課名	都市建設課	事業実施(予定)年度	平成26~29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地球温暖化防止対策の推進 Ⅲ-10-(1)	
事業内容	低炭素島しょ社会の実現と自然豊かな環境に配慮した町づくりの推進を図るため、町内に設置されている防犯灯・街路灯のLED化事業を実施する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	<b>予算の状況</b>	(a) 当初予算額	7,297	35,000	40,760		
		(b) 予算現額	7,297	40,176	36,716		
		(c) 増減額(b-a)	0	5,176	▲ 4,044		
		(d) 繰越額	—	—	—		
		A. 計(b+d)	7,297	40,176	36,716		
	B. 執行済額		6,123	40,176	36,716		
	うち交付金充当額		4,898	32,140	29,372		
	次年度繰越額		—	—	—		
	執行率(%) (B/A)		84%	100%	100.0%		
予算の状況の説明		当初予算額では、40,760(千円)(事業費)であったが、工事費において資材の価格調査により資材費の価格が下がったこと、また、入札残が生じたため予算4,044(千円)が不要になった。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	防犯灯・街路灯375基のLED化の実施	目標	( 防犯灯・街路灯の375基LED化 )	( )	( )	( )	
		実績	防犯灯・街路灯の375基LED化				
	デザイン街路灯のLED化に向けた実施設計の実施	目標	( 実施設計の完了 )	( )	( )	( )	
実績		実施設計の完了					
達成状況説明	本事業は、町内に設置されている全ての水銀灯等の防犯灯・街路灯を、LED灯具へと取替える為の事業である。平成28年度においてはLED灯具への取替を375基実施した。また、デザイン街路灯のLED化に向け、デザイン案の決定、工事費の積算を行った。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	平成26年度比CO2排出量削減率 防犯灯(79%) H26年度CO2排出量:約350t/年(概算値) H28年度CO2排出量:約72t/年(概算値)79%減 街路灯(65%) H26年度CO2排出量:約438t/年(概算値) H28年度CO2排出量:約155t/年(概算値)65%減	目標	( )	( )	( Co2排出量をh26年度比で56%削減することを目標とする。 )	( Co2排出量をh26年度比で防犯灯で79%削減、街路灯で65%削減することを目標とする。 )	( )
		実績	/	/	Co2排出量をh26年度比で56%削減することができた。	Co2排出量をh26年度比で防犯灯で79%削減、街路灯で65%削減することができた。	/
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績	/	/	/	/	/
進捗状況説明	平成28年度の成果目標にてCo2排出量の平成26年度比において防犯灯が79%、街路灯65%の削減を成果目標とし、実績として下記のとおりとなります。 (実績) 防犯灯(1基当り) H26年度CO2排出量:約301kg-co2/年⇒H28年度CO2排出量:約60kg-co2/年 80%減⇒平成26年度比で1基あたりの防犯灯のCo2排出量が79%削減できた。 街路灯(1基当り) H26年度CO2排出量:約376kg-co2/年⇒H28年度CO2排出量:約136kg-co2/年 64%減⇒平成26年度比で1基あたりの街路灯のCo2排出量が65%削減できた。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)	
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2次嘉手納町地球温暖化防止実行計画のCo2削減目標を達成できるように本事業においても事業計画を推進していく必要があり、実施設計において、高効率照明の選定が必要になる。</li> <li>防犯灯・街路灯LED化推進工事において平成28年度事業同様に安全対策、施工管理、品質管理において十分注意する必要がある。</li> <li>道路上での作業となるため、交通誘導員を配置して地域交通の妨げにならないように配慮する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2次嘉手納町地球温暖化防止実行計画のCo2削減目標を達成できるように平成29年度工事において設置するLED街路灯は平成28年度にて実施設計を行った内容の高効率照明を設置していく。</li> <li>平成28年度において実施した工事において、施工上の問題点や、工程管理での問題点、地域住民への対応等の対策を引平成29年度も同様の工事であることから今後の工事に生かしていく。</li> </ul>	
	<p>・低炭素島しょ社会の実現と自然豊かな環境に配慮した町づくりの推進を図るため既存の水銀灯防犯灯、街路灯をLED化することにより、最大80%のCo2排出量を削減できることから当該事業による効果が期待できる。また、工事も引き続き実施していることから、これまで以上に高所作業での、安全対策に十分注意し、工事中、地域住民にも迷惑をかけないように作業中の交通安全対策を万全にし、工事を円滑に遂行していく。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
36,716	36,716	29,372	7,344	0



資金の 使途の 流れ、 点検、 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○工事費においては標準積算基準書を準拠し、工事費を積算しているのが妥当だと考える。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	嘉手納町						
<b>平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	5-②	ロータリープラザ省エネ化推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-イ	
担当部課名	教育委員会中央公民館	事業実施(予定)年度	平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	クリーンエネルギーの推進		
事業内容	低炭素島しょ社会の実現に向けた取り組みを推進するため、町内の公共施設へ太陽光発電システムを設置することにより、省エネルギー化及びCO2排出低減を図る。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	<b>予算の状況</b>	(a) 当初予算額	79,110				
		(b) 予算現額	58,091				
		(c) 増減額(b-a)	▲ 21,019				
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)	58,091				
	B. 執行済額		58,091				
	うち交付金充当額		46,472				
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
<b>予算の状況の説明</b>		実施設計を行ったところ、太陽光パネルの設置対象面積が縮小(250㎡)され、発電容量が当初の49Kwから30Kwと算定されたため、設置する資材がその分少なくなり、工事費21,019千円減額した。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	ロータリープラザ太陽光発電システム設置 実施設計の実施	目標	( 実施設計の実施 )	( )	( )	( )	
		実績	実施設計完了				
	ロータリープラザ太陽光発電システム設置 工事の実施	目標	( 設置工事の実施 )	( )	( )	( )	
		実績	設置工事完了				
<b>達成状況説明</b>	太陽光パネルの設置規模は、建物の形状による受光・発電効率への配慮やメンテナンス用に必要な通路の確保などにより確定する。これらの条件により太陽光パネルの設置対象面積を縮小(250㎡)し、発電容量30Kwの(当初49Kw)太陽光発電システムを設置した。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	31年度
	CO2削減量において、対前年度同月比CO2削減量:約4.8%(概算値)削減	目標	( )	( 対前年度同月比約4.8% )	( )	( )	( )
		実績		CO2削減量対前年度同月比5.2%削減			
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	<b>進捗状況説明</b>	平成29年4月と5月の平均CO2排出削減量は約5.2%と目標値の対前年度同月比4.8%削減を達成している。					

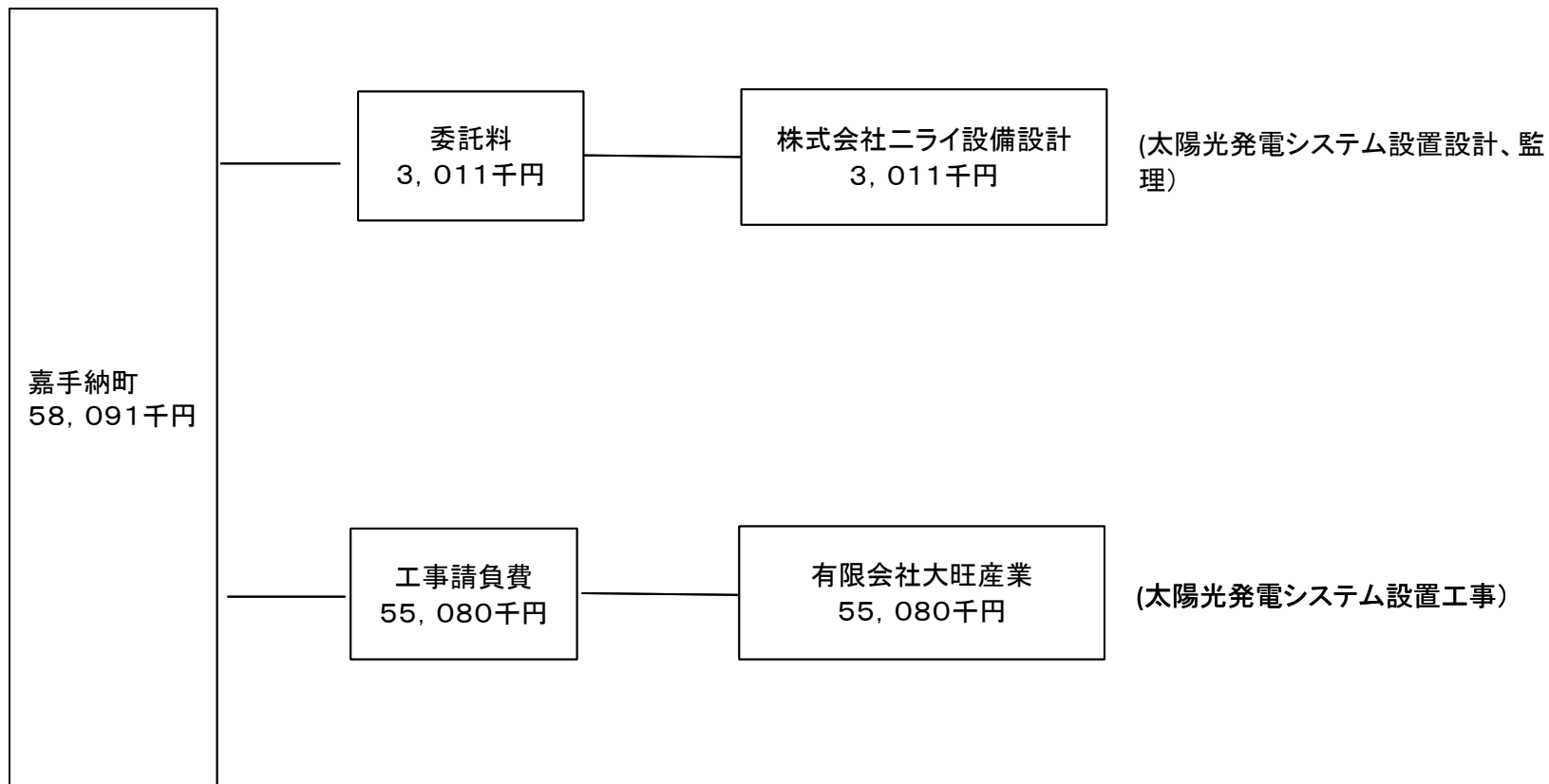
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>本事業は、嘉手納町地球温暖化防止実行計画にもとづき、低炭素島しょ社会の実現に向けた取り組みを推進するため、町内の公共施設へ太陽光発電システムを設置することにより、省エネルギー化及びCO2排出低減を図ることを目的に実施した。</p> <p>当初予算では、より多くのCO2排出削減を目指すため、ロータリープラザ屋上の空き面積(547㎡)に太陽光パネルを敷き詰める設定で算出したものの太陽光パネルの設置規模は、建物の形状による受光・発電効率への配慮やメンテナンス用に必要な通路の確保などを要す。これらの条件により設置対象面積を縮小(250㎡)し発電容量30Kw(当初49Kw)の太陽光発電システムを設置することとなった。</p> <p>今後、目標どおりCO2が削減されるかの検証が必要である。</p>	<p>設置対象面積の縮小により当初予定の発電容量を下回ったが、これについては実施設計により適正規模が算定された結果である。</p> <p>活動目標は達成されており、今年度事業に対する改善の必要はないものと考えられる。</p> <p>今後もCO2の排出削減量が目標値(約4.8%(概算値))を達成するか検証していく。</p>

**今後の取り組み方針**

CO2の排出削減量が目標値(約4.8%(概算値))を引き続き達成するか検証していく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
58,091	58,091	46,472	11,619	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額はなく適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については完了検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



市町村名	嘉手納町						
<b>平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	5-③	低炭素社会化事業(省エネ設備導入事業)			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-(ア)	
担当部課名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地球温暖化防止対策の推進		
事業内容	省エネルギー設備の導入により環境負荷の少ない低炭素社会の実現を図るため、照明設備等をLED照明に切り替え、温室効果ガス(CO2)の排出を抑制する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	<b>予算の状況</b>	(a) 当初予算額	19,500				
		(b) 予算現額	19,332				
		(c) 増減額(b-a)	▲168				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計(b+d)	19,332				
	B. 執行済額		19,332				
	うち交付金充当額		15,465				
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		・事業計画通りに執行した。 ・当初予算額は、19,500千円であったが、入札残により不用額168千円が発生した。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	照明設備約560灯のLED化実施	目標	( 照明設備560灯のLED化 )	( )	( )	( )	
		実績	照明設備560灯のLED化				
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	本事業は、既存公共施設(嘉手納中学校)に設置されている照明設備を低炭素島しょ社会の実現と自然豊かな環境に配慮した町づくりの推進を実現するため、照明設備560灯のLED化を実施した。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	CO2削減量において、対前年度同月比のCO2削減量 5%以上削減	目標	( )	( 5%以上削減 )	( )	( )	( )
		実績		8.98%削減			
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	進捗状況説明	照明設備をLED照明に切り替えることにより、8.98%のCO2削減が図れた。これからは電気使用量のモニタリングを継続的に行い、前年同月との比較を行い、削減状況の確認作業を行う。					

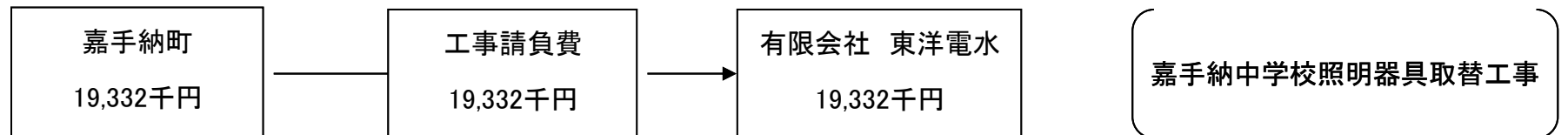
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育施設での取替工事であったため、学校運営に支障のないような作業日程を設定する必要があった。</li> <li>・照明設備をLED照明にすることで、CO2排出の削減が図られたが、その他の使用電力の削減も努力する必要がある。</li> <li>・機器の切り替えによるCO2削減は図られたが、継続的な節電対策が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育施設における夏休み、秋休み、春休みのなどの長期休暇を活用した事業工程の設定がより安定した事業進捗が図られる。</li> <li>・電気使用量の大きな空調機器(冷房機器)の高効率化(更新)を検討し使用量の削減を目指す。</li> <li>・継続的な節電対策のために、使用者による節電への意識向上を図る必要がある。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

・電力使用量のさらなる削減を目指す。  
 具体的対策として、電気使用量の大きな空調機器(冷房機器 15年経過)の高効率化(更新)を検討し、使用量の削減を目指す。  
 また、使用者による節電の意識向上の啓発を図る。(嘉手納町地球温暖化防止実行計画の周知、環境保全活動の情報提供など)

**資金の流れ**  
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
19,332	19,332	15,465	3,867	0



資金の流 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○工事費においては公共建築工事積算基準を準拠し、積算しているため妥当だと考える。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	嘉手納町						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①	食育まんが啓発推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(1)-ア	
担当部課名	町民保険課	事業実施(予定)年度	平成26~28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の食や風土に支えられた健康づくりの推進 Ⅲ-4	
事業内容	長寿の知恵を次世代へ継承するため、地域の高齢者から長寿と言われる戦前の食生活を聞き取りまんがを制作するとともに、保育所(保護者)から中学生を対象に配布する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		1,199	2,138	2,138		
			1,199	2,138	2,138		
			0	0	0		
			-	-	-		
			1,199	2,138	2,138		
	B. 執行済額		1,199	2,138	2,138		
	うち交付金充当額		959	1,710	1,710		
	次年度繰越額		-				
	執行率(%) (B/A)		100%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		当初の計画どおり期間内に事業が完了し、予算執行したため執行率100%となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	まんがの制作(2本)	目標	( 1作品 )	( 2作品 )	( 2作品 )	( )	
		実績	1作品	2作品	2作品		
	対象者への配布率(100%)	目標	( 3,000部 )	( 6,000部 )	( 100% )	( )	
		実績	3,000部	6,000部	100%		
達成状況説明	食育まんがを2作品作成(3,000部/作品)し、配布対象である町内認可保育園保護者から中学生まで全ての対象者に配布することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(25年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	「食育の日」の認知度(保育所保護者の40%)	目標	( 7.7% )	( 増加 )	( 20.0% )	( 40.0% )	( )
		実績		15.4%	10.1%	15.0%	
	【参考指標】 食育の言葉と意味を理解している者の割合(保育所保護者アンケート)	目標	( 52.4% )	( 増加 )	( 増加 )	( 増加 )	
		実績		57.7%	59.0%	54.4%	
	【参考指標】 次世代に伝えたい郷土料理等があり、実際に伝えている者の割合(保育所保護者アンケート)	目標	( 16.2% )	( 増加 )	( 増加 )	( 増加 )	
実績			18.8%	21.3%	26.1%		
進捗状況説明	目標設定値は、嘉手納町健康・食育かでな21を構築する際に課の方針として、「食育の日」の認知度の目標値をH27年度20%、H28年度40%を目標値とした。 H26年度は食育まんがに食育の日等を掲載。H27年度以降については各保育所での配布の際に口頭及び食育の日の掲載コピーを配布し、食育の日の周知を併せて行うことで、「食育の言葉と意味を理解している者」の割合が増加し、食育まんがに郷土料理メニューを掲載することで、「次世代に伝えたい郷土料理があり、実際に伝えている者」の割合が増加した。 目標を達成できなかった理由としては、食育まんがの配布対象者は保育園児から中学生だが、アンケートの対象者が認可保育所の保護者のみで検証を行った為、検証に偏りがみられ、検証方法の再考が必要である。 今後は、食育まんがを普及啓発し健康的な郷土料理を伝承し食生活の意識向上を図るとともに、より実態を把握できるアンケートの実施について検討する。						

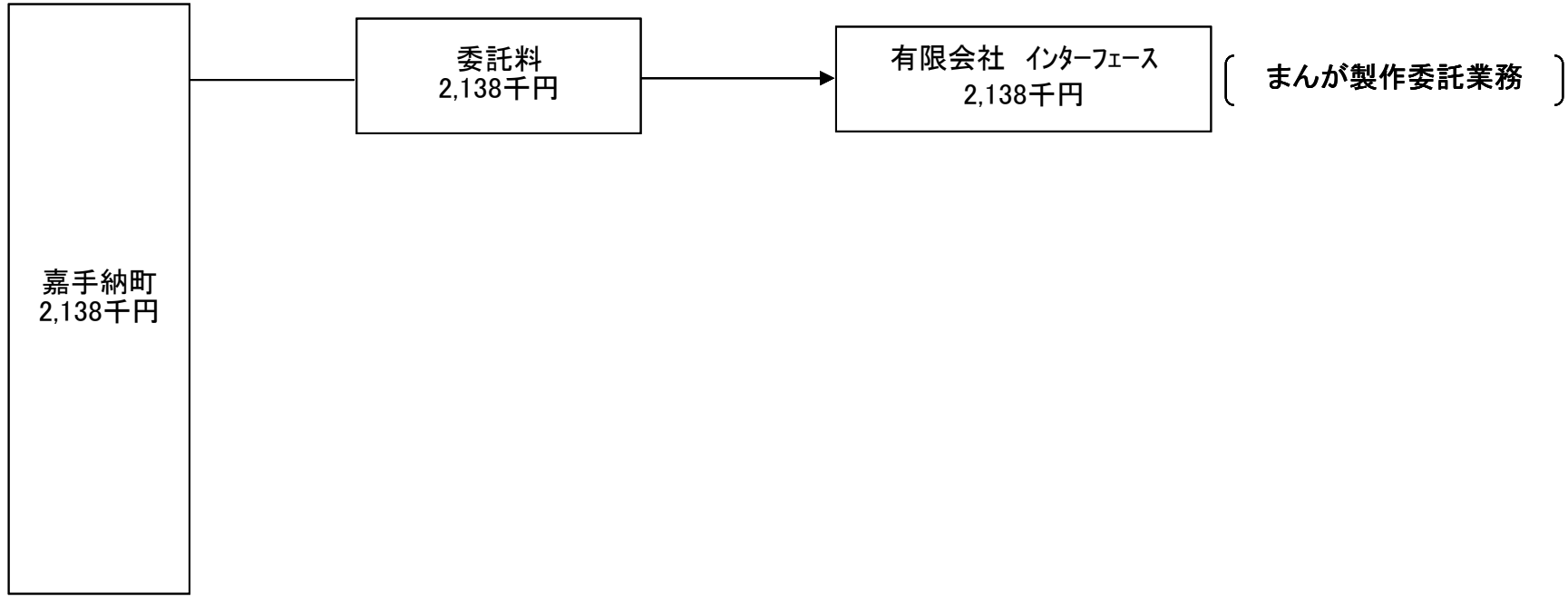
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①アンケート対象者が認可保育所保護者のみで、検証が適切ではなかった為、アンケート対象者を広げる必要がある。 ②健康的な食生活の習得には、単発の事業実施ではなく継続的な取組み及び周知が必要である。 ③食育について認知度を向上させるため、町民に広く周知することが求められる。	①アンケート対象者を保育所から中学校まで広げ、検証を行う必要がある。 ②食育まんがを媒体とした嘉手納町の各食育事業と連携する必要がある。 ③まんがのデータを町のHPIに掲載するなどし、まんがの活用及び周知する必要がある。

**今後の取り組み方針**

検証方法は、保育所から中学校までアンケート調査を行い、効果を確認する。作成したまんがを媒体に食育講座や調理実習、町関連事業等に活用し食育の推進を図っていく。その際に活用しやすいよう1ページ単位でも資料として活用できる構成を検討し、町民に広く周知するため、町のHPIに食育まんがを掲載する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
2,138	2,138	1,710	428	0



資金の流 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○公募型プロポーザル方式により民間業者より選定し随意契約した。 ○予算規模は2社から見積りを徴し、比較検討したため適正な規模と考える。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



市町村名 嘉手納町

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名 7-① 嘉手納町密集市街地地区改善事業 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 第3章-2-(4)-イ

担当部課名 都市建設課 事業実施(予定)年度 平成27~29年度 沖縄振興基本方針該当箇所 III-10

事業内容 本町における密集市街地問題を改善するため、土地所有者・家屋所有者・居住者と協働し、密集市街地地区整備の方向性を定め、問題改善に向けて整備する。

実施方法 □直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他( )

Table with columns for years (27年度 to 31年度) and rows for budget status (a-d), execution amount, and explanation.

Table for activity goals and achievement status, including H28 activity goals and achievement status for various tasks like resident association setup and topic整理.

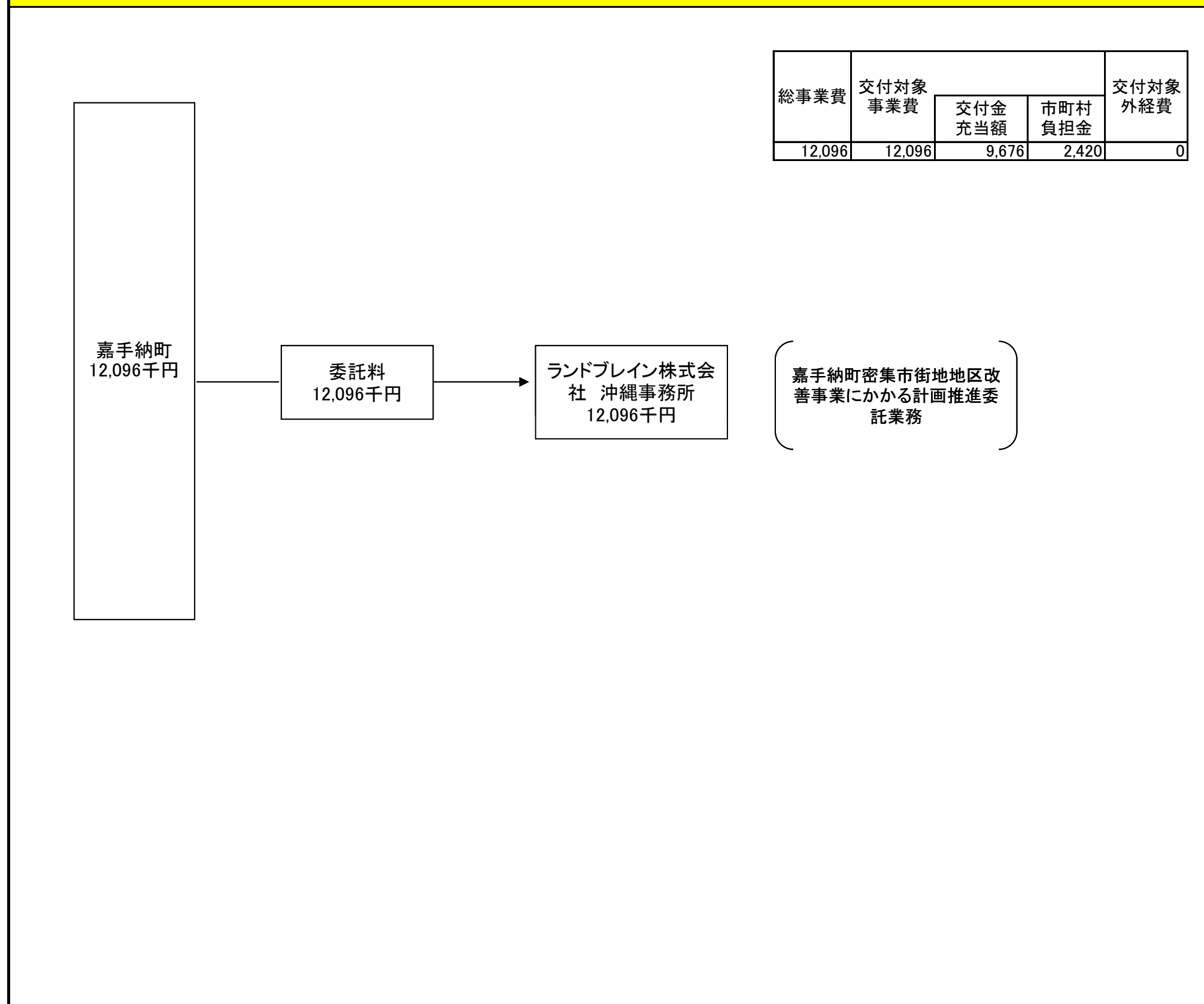
Table for achievement goals and progress status, including H28 achievement goals and progress status for tasks like individual plot creation and local organization formation.

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内には低所得者の高齢者世帯もあり、これまで低地代や低家賃で地区内に居住している。事業化に伴い、町営住宅並みの家賃が発生すると、生活が困窮することが懸念される。</li> <li>・これまでの地域懇談会等により、関係権利者はまちづくりの必要性を認識しているが、生活の変化に対する抵抗が強いため、事業実施後の生活がどのようになるのか意識できる取り組みが必要となる。</li> <li>・地区内にて土地の形状と建物敷地の形状が一致しない箇所が多々見受けられる状況である。道路整備により不整形敷地や利用不便な残地が生じる見込みがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低所得世帯については、都市再生住宅の先行的建設や家賃緩和策等を講じるなど、生活再建を検討していく必要がある。</li> <li>・事業実施後の生活をイメージしてもらうため、補償費や家賃などの経済的な判断材料について情報提供する事が求められる。また、共同住宅での生活をイメージしてもらうため、メリットやデメリットを十分に説明し、安心して判断できる条件を示す必要がある。</li> <li>・道路整備を契機に隣接する地主や借地権者等において、土地交換や敷地整除を実施し、利活用が図りやすい土地の整形についても検討する必要がある。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

平成29年度においては、地域住民及び関係権利者によって設立された「まちづくり協議会」の運営支援を引き続き継続していき、まちづくり計画の方針等を決定していく。協議会から町へ提出された要望書に基づき、防災性の向上及び生活環境改善のため、道路整備等を推進していく。地区内の現況測量を実施し建物・工作物の位置関係等の調査を実施し、道路整備等に当たっての支障となる建物・工作物等の調査をおこない、補償費の算定を行っていくことで今後の整備等着手へ向けて事業を推進していく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法に関し、指名競争入札により決定した。県内において、まちづくり計画の実績を有する業者を指名し入札に付したことにより、同等程度の実力の業者間で価格競争が促されたことにより、事業遂行能力及び経済性をも勘案した内容での発注ができた。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、執行率95%以上であり適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目及び用途については、嘉手納町密集市街地地区改善計画推進委託業務を実施するうえで、事業目的に沿った支出であり適正であると考え。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	嘉手納町						
<b>平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	8-①	嘉手納町住環境整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(6)-ア	
担当部課名	都市建設課	事業実施(予定)年度	平成27~28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域特性に応じた生活基盤の整備		
事業内容	本町における住環境の問題の改善に向けた住宅政策の確立及び推進を図るため、住環境整備計画を策定する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	<b>予算の状況</b>	(a) 当初予算額	13,490	11,836			
		(b) 予算現額	13,413	11,340			
		(c) 増減額(b-a)	▲ 77	▲ 496			
		(d) 繰越額	—	—			
		A. 計(b+d)	13,413	11,340			
	B. 執行済額		13,413	11,340			
	うち交付金充当額		10,730	9,072			
	次年度繰越額		—	—			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画通りに執行した。</li> <li>・当初予算額は、11,836千円であったが、入札残により不用額496千円が発生した。</li> <li>・履行期間中における変更等もなく、また出来高不足もなかったことから当初契約額と変更なしで精算した。</li> </ul>					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	・転入促進、転出抑制に向けた具体的施策の検討・抽出の実施	目標	( 具体的施策の検討・抽出の実施 )	( )	( )	( )	
		実績	具体的施策の検討・抽出の実施				
	・既存施策及び事業との整合を図るためヒアリングを実施(5件)	目標	( ヒアリングの実施:5件 )	( )	( )	( )	
		実績	ヒアリングの実施:6件				
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住環境整備計画策定に向けての具体的施策については、本町の上位計画の検証と過年度調査に基づき10の方向性を設定し転入促進、転出抑制に向けた具体的施策の検討・抽出を実施した。</li> <li>・本町における住宅関連の事業を進める上で関係が深い建設事業者等の民間事業者に対して、事業参画意欲や条件、町内における建設事情、問題等について把握するためにヒアリング調査を6件実施した。</li> </ul>						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	平成29年度住環境施策の推進に向けた業務の着実な実施。(住環境整備計画策定の完了)	目標	( )	( 住環境施策に向けた業務の実施 )	( )	( )	( )
		実績		住環境施策に向けた業務の完了			
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体事業の検証をした結果、短期(1・2年以内に着手可能な取組)、中期(3~5年以内に成果が期待可能な取組)、長期(5年以上の歳月が想定される取組)と取組時期別に流入人口の増加及び人口流出抑制の事業計画を作成した。</li> </ul>					

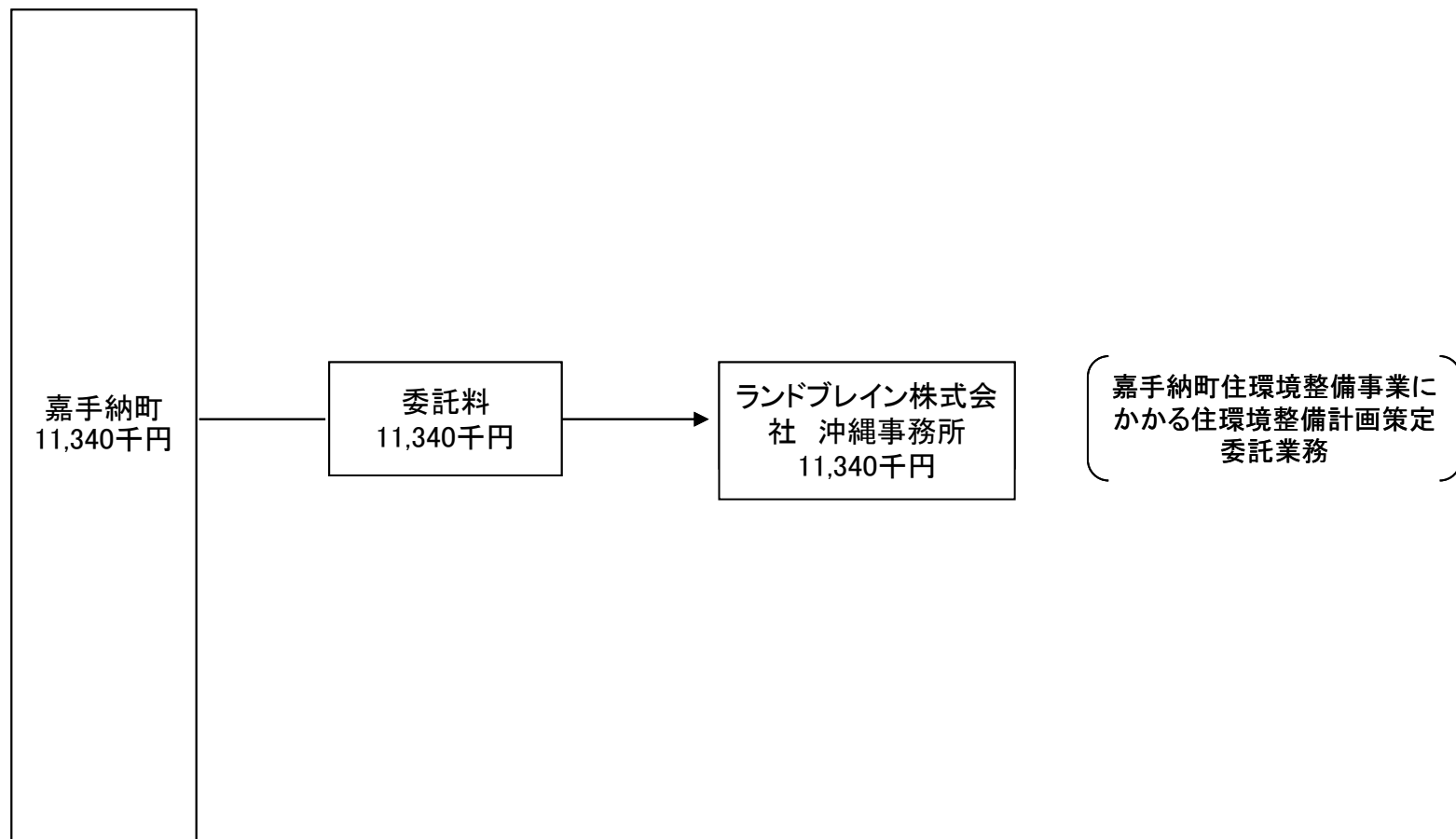
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	民間事業者ヒアリングの結果、活用できる広域な土地や物件情報の不足等が上がった。利活用されていない土地や空き家も確認できるが、不動産の循環が難しい。	所有者・事業者・町民の意向に沿った不動産の流動が生まれておらず、悪循環となっている。既存建物の除却費補助、新規住宅取得補助等による定住促進事業を実施することで、不動産の循環を促す。

**今後の取り組み方針**

平成29年度においては、平成28年度に作成した「嘉手納町住環境整備計画」に基づき、本町の住環境における課題の解決に向けて、定住促進施策事業の制度を立案し、実施する。今後は、住環境を改善していくために、短期・中期・長期それぞれの住環境施策を順次実施していく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
11,340	11,340	9,072	2,268	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法に関し、指名競争入札により決定した。県内において、住生活基本計画や総合計画、まちづくりに関する業務に実績を有する業者を指名し入札に付したことにより、同等程度の実力の業者間で価格競争が促されたことにより、事業遂行能力及び経済性をも勘案した内容での発注ができた。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、執行率95%以上であり適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目及び用途については、嘉手納町住環境整備基本計画業務を実施するうえで、事業目的に沿った支出であり適正であるとする。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



市町村名	嘉手納町						
<b>平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	9-①	未買収道路現況調査事業					
担当部課名	都市建設課	事業実施(予定)年度 平成28年度					
事業内容	未買収道路(潰地)の発生原因は、戦中戦後に旧日本軍や米軍によって強制的に道路建設がなされたことも一因としてあり、沖縄特有の問題でもある。そのような問題の解決に向けて、本町においては、調査が未実施となっている町道全域の約3分の2において未買収道路現況調査を実施する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	28年度						
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d) B. 執行済額	(a) 当初予算額	7,064				
		(b) 予算現額	6,858				
		(c) 増減額(b-a)	▲ 206				
		(d) 繰越額	0				
		A. 計(b+d)	6,858				
	うち交付金充当額	5,486					
	次年度繰越額	0					
	執行率(%) (B/A)	100.0%					
	予算の状況の説明	事業計画時点での見込額は、7,064千円であったが、指名競争入札を執行したところ、6,858千円で落札があり、当該業者と契約締結した。入札残の206千円を補正予算で減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度				
	・現況調査の実施(①資料収集(公図、航空写真、地籍図、登記簿謄本等)②地籍併合図による潰地抽出③潰地面積算出④潰地所有者リスト作成)	目標	( 28.274km )	( )	( )	( )	
		実績	39.150km				
	目標	( )	( )	( )	( )		
実績							
達成状況説明	目標としていた現況調査未実施の町道28.274kmを含め、全ての町道を調査することができた。調査によって判明した潰地の位置、面積、所有者情報等を盛り込んだ管理台帳を整備することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度		目標値(年度)	
	・未買収道路現況調査の完了(100%)	目標	( )	( 100% )	( )	( )	
		実績		100%			
	・管理台帳の作成完了	目標	( )	( 作成 )	( )	( )	
		実績		作成完了			
進捗状況説明	嘉手納町の全町道の潰地を路線毎に、面積や所有者情報を一覧表にし、潰地調書として取りまとめた。また、全ての潰地の位置を地図上で表記した潰地台帳図(A1版・A2版)は、東部版と西部版に分冊されている。索引図もあり、検索も容易な利便性の高い管理台帳に仕上がっている。(CD-Rも納品されており、電子データでの閲覧も可能)						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	全町道を調査し、潰地の筆数や位置、所有者等を把握することはできたが、面積については、図上計測による算出であるため、実測面積との間に誤差が生じることは否めない。参考数値として活用することとし、売買契約等の際には、事前に土地家屋調査士等に現地測量による潰地面積の計測や分筆登記を委託し、契約締結時には実測面積を採用する必要がある。	管理台帳としての機能は備わっているため、今後の計画立案や事業費の試算等への活用は可能であるが、実測面積ではないため、契約への活用ができないことが難点である。測量調査に要する費用を抑えることができるのであれば、現地測量を実施し、面積欄を実測値に改め、より利便性の高い台帳への改善が図れる。

**今後の取り組み方針**

管理台帳を基に潰地事業全体の事業見込額を試算することができるので、事業計画の素案作成が可能となる。今後の潰地事業の計画策定用の基礎資料としての活用が見込まれる。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,858	6,858	5,486	1,372	0



資金の流 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○委託事業者が、追加の要望についても柔軟に対応したので、管理台帳は当初の想定以上の仕上がりとなっている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○委託事業者と綿密に、管理台帳の用途について協議し、町が保有する資料も提供したので、必要最低限度の費用で賄われている。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	嘉手納町						
<b>平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	10-①	沖縄フェスティバルinハワイ派遣事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-エ	
担当部課名	教育委員会 社会教育課	事業実施(予定)年度	平成28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	文化の発信・交流	
事業内容	本町の文化活動の活性化を目指し、伝統芸能の振興を図るため、沖縄の伝統文化を継承を目的とし、ハワイで開催される「沖縄フェスティバル」へ町内の指定無形文化財保存団体等を派遣し、ハワイ在住の県人会、町人会との伝統芸能を通しての交流を図るとともに、町内の指定無形文化財保存団体等の育成を図る。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	<b>予算の状況</b>	(a) 当初予算額	5,150	8,323		11,612	
		(b) 予算現額	5,138	8,323		7,448	
		(c) 増減額(b-a)	▲12	0		▲4,164	
		(d) 繰越額	—	—		—	
		A. 計(b+d)	5,138	8,323		7,448	
	B. 執行済額		5,137	6,500		7,448	
	うち交付金充当額		4,109	5,200		5,958	
	次年度繰越額		—	—		—	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	78%		100.0%	
予算の状況の説明		当初は、派遣する人数を45名としていたが、7名のキャンセルが発生したことによる費用の減及び委託の入札残により4,164千円の減が生じた。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	フェスティバル参加(演舞2回)	目標	( 3回 )	( 2回 )	( )	( 2回 )	
		実績	3回	2回		2回	
	県人会、町人会との交流	目標	( )	( 交流 )	( )	( 交流 )	
		実績		交流		交流を実施した。	
達成状況説明	<p>沖縄フェスティバルは、悪天候により野外での公演は中止となったが、大型ショッピングセンターの舞台を活用し、多数の人の前で演舞を披露した。また、県人会、町人会との交流の際にも演舞を披露し、交流を深めた。</p> <p>今回の派遣を通し、これまでとだえかけていた芸能を復活させることができ、多数の人の前で演舞を披露するとともに、県人会、町人会との交流の際にも演舞を披露することができた。</p>						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	派遣報告書作成	目標	( )	( 報告書作成 )	( )	( 派遣報告書作成 )	( )
		実績		報告書作成済		派遣報告書作成済み	
	報告会の開催	目標	( )	( 報告会実施 )	( )	( 報告会の開催 )	( )
		実績		報告会未実施		未開催	
	フェスティバルへの派遣人数:45名	目標	( )	( 35名 )	( )	( 45名 )	( )
実績			35名		38名		
進捗状況説明	<p>派遣報告書については、作成済みであるが、報告会については、団体の行事の関係で日程が調整できず実施できなかった。今年度実施できなかった報告会については、29年度に実施するよう団体と調整をしている。</p> <p>派遣人数については、当初45名を派遣する予定であったが、7名のキャンセルが発生したため、目標の45名を派遣することができなかった。</p> <p>ハワイ派遣の経験をとおり、途絶えかけていた芸能を復活させ、演舞を披露できたことを団体内部で情報を共有するとともに、地域の他団体へフィードバックすることにより、文化芸能の保存、継承を図っていく。</p>						

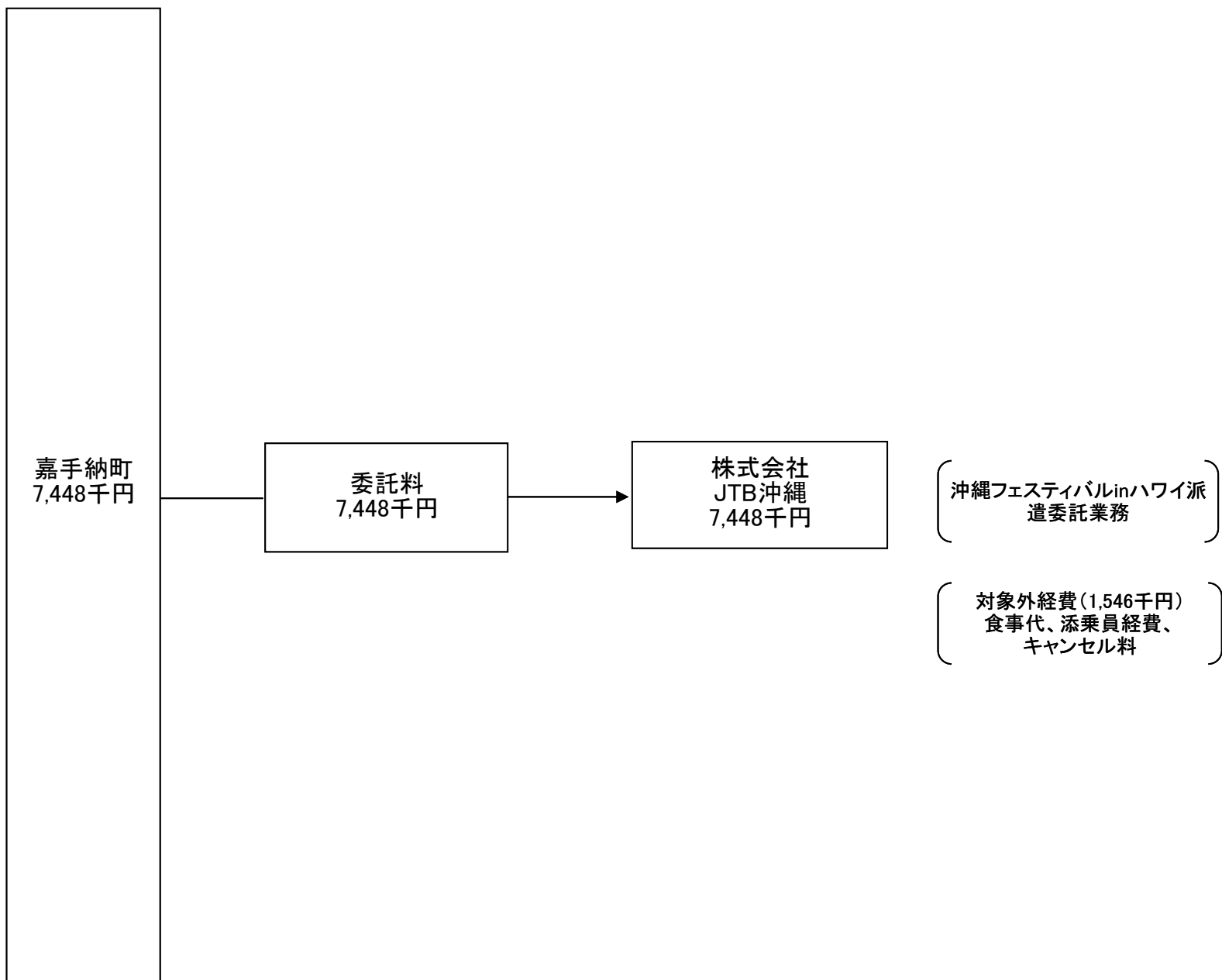
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	町内にある無形文化財保存団体は、活動の衰退や継承者が減少している課題があり、派遣団体も町内の他団体と同様の課題を抱えている。今回、ハワイへの派遣が決定したことで、団体の意識が変わり、途絶えかけていた芸能を復活させるなど、活動は活発化している。今後は継ぎ手の確保、育成が課題である。	無形文化財保存団体の相互の情報交換をし、課題等について話し合い改善策を見出す。継ぎ手の確保、育成を図るため、出演実績等の町内無形文化財に関する情報を発信し、団体の現状や団体の活動を周知していく必要がある。

**今後の取り組み方針**

町内の無形文化財保存団体等(旧字:13箇所)の地域の伝統、芸能などについての情報交換を行う場を設定する。町内施設等へ、無形文化財等の活動、歴史の写真、資料等を展示することにより周知する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
8,994	7,448	5,958	1,490	1,546



資金の流 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者については、実績等を考慮し、指名競争入札で選定している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、フェスティバル等公演に必要な人数の派遣費を対象としており、適正な規模であったと考える。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、計画したスケジュールのとおり履行しており、事業目的に沿った支出と判断するため、適正な支出と考える。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



市町村名	嘉手納町						
<b>平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	11-①	ハーリー船造船事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-(ア)	
担当部課名	産業環境課 農林水産係	事業実施(予定)年度	平成28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	III-3-(2)	
事業内容	文化観光資源のひとつとして盛り上がりを見せるハーリー行事を継続することにより沖縄独特の文化を守り、又伝統行事として継承するため、ハーリー船を購入する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	<b>予算の状況</b>	(a) 当初予算額	2,916				
		(b) 予算現額	2,916				
		(c) 増減額(b-a)	0				
		(d) 繰越額	-				
		A. 計(b+d)	2,916				
	B. 執行済額		2,916				
	うち交付金充当額		2,332				
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		事業計画どおりに予算執行を行えた。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	ハーリー船の建造(3隻)	目標	( 3隻 )	( )	( )	( )	
		実績	3隻				
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	現在のハーリー船の規格等を基に、建造業務を委託し平成29年3月に3隻の納品完了。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	ハーリー船の建造完了(3隻)	目標	( )	( 3隻 )	( )	( )	( )
		実績		3隻			
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	進捗状況説明	ハーリー船3隻の建造完了により、平成29年度第30回ハーリー大会の開催計画を予定していく。					

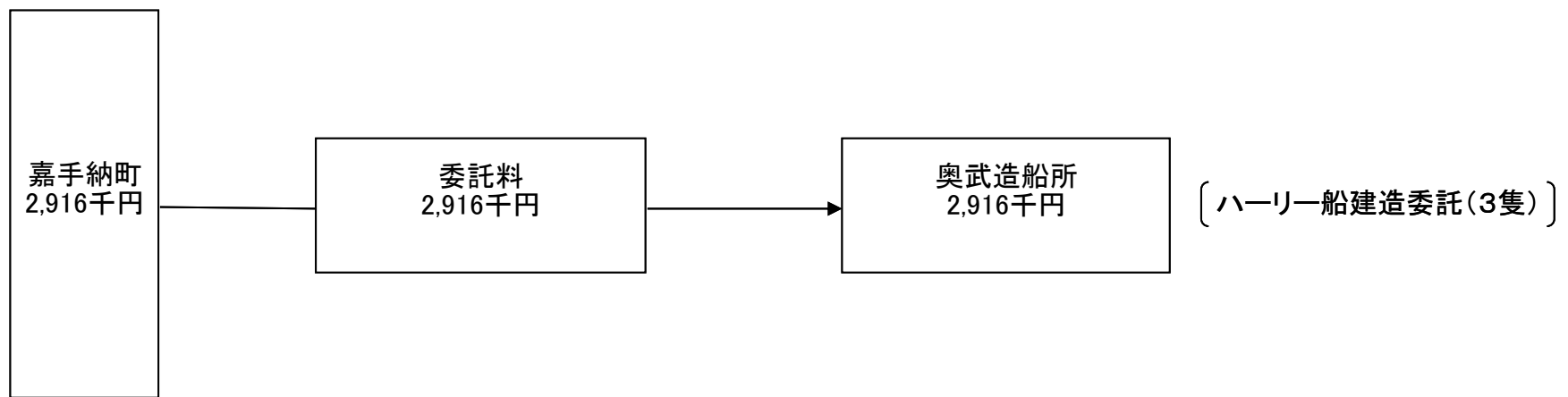
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	文化観光資源のひとつとして盛り上がりを見せるハーリー行事を継続することにより沖縄独特の文化を継承するため、又伝統行事として残すために、ハーリー船建造(3隻)を完了した。新しいハーリー船は建造したが、ハーリー大会の伝統行事を継承していく「人」の育成していたため、小中高等学校の若い世代にハーリー体験授業の実施計画や漁業者の新規就労者の周知活動などが出来ないか検討する。	沖縄独特の伝統行事であるハーリー大会の継続実施できるように努める。

**今後の取り組み方針**

現在のハーリー船が水漏れなど老朽化が進んでおり、ハーリー大会の運営に支障をきたしている。当該事業によりハーリー船3隻を建造したので、平成29年度以降も新しいハーリー船を活用した伝統行事、嘉手納町ハーリー大会の継続的な実施計画を予定していく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,916	2,916	2,332	584	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は沖縄県内で唯一木造のハーリー船を建造している事業者であることから、随意契約が妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業費はハーリー大会を開催するに3隻必要であり適正な規模であった。
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、用途については完了検査を実施しており、ハーリー船3隻を建造するに目的に即し必要なものであったと判断した。

市町村名	嘉手納町						
<b>平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	12-①	避難施設防災機能強化整備事業					
担当部課名	総務課	事業実施(予定)年度 平成25～28年度					
		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 災害に強い県土づくりと防災体制の強化					
		沖縄振興基本方針該当箇所 Ⅲ-10-(2)					
事業内容	嘉手納町内の防災・減災の強化の実現に向けて、避難所における防災機能強化として、非常食料の備蓄、生活必需品の備蓄、避難所設置応急対策備品の確保を図り、避難所の防災機能を強化する。合わせて、保管用の備蓄倉庫を設置する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	<b>予算の状況</b>	(a) 当初予算額	15,788				
		(b) 予算現額	14,710				
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,078				
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)	14,710				
	B. 執行済額		14,710				
	うち交付金充当額		11,767				
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		嘉手納町の防災・減災に向けて備蓄倉庫を設置し必要最低限の備蓄品を図った。予算額と執行済額の差額は、指名競争入札によるものである。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	町内の避難所へ備蓄品等の配置及び保管用備蓄倉庫の設置(2か所)	目標	( 8か所 )	( )	( 3か所 )	( 2か所 )	
		実績	8か所		3か所	2か所	
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	避難施設の機能強化や非常食料の備蓄、生活必需品の備蓄、避難所設置応急対策備品の充実が図られ、平成28年度で町内避難所2か所への整備を行った。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	町内の避難所へ備蓄品の配置(H28年度で町内全避難所の65%配置完了)	目標	( )	( )	( 55%配置 )	( 65%配置 )	( )
		実績			55%配置完了	65%配置完了	
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	進捗状況説明	防災施設の機能強化や非常食料の備蓄、生活必需品の備蓄、避難所設置応急対策備品の充実が図られ、平成28年度で町内全避難所の65%配置を完了しており、今後全避難所施設等に備蓄品を配置する。					

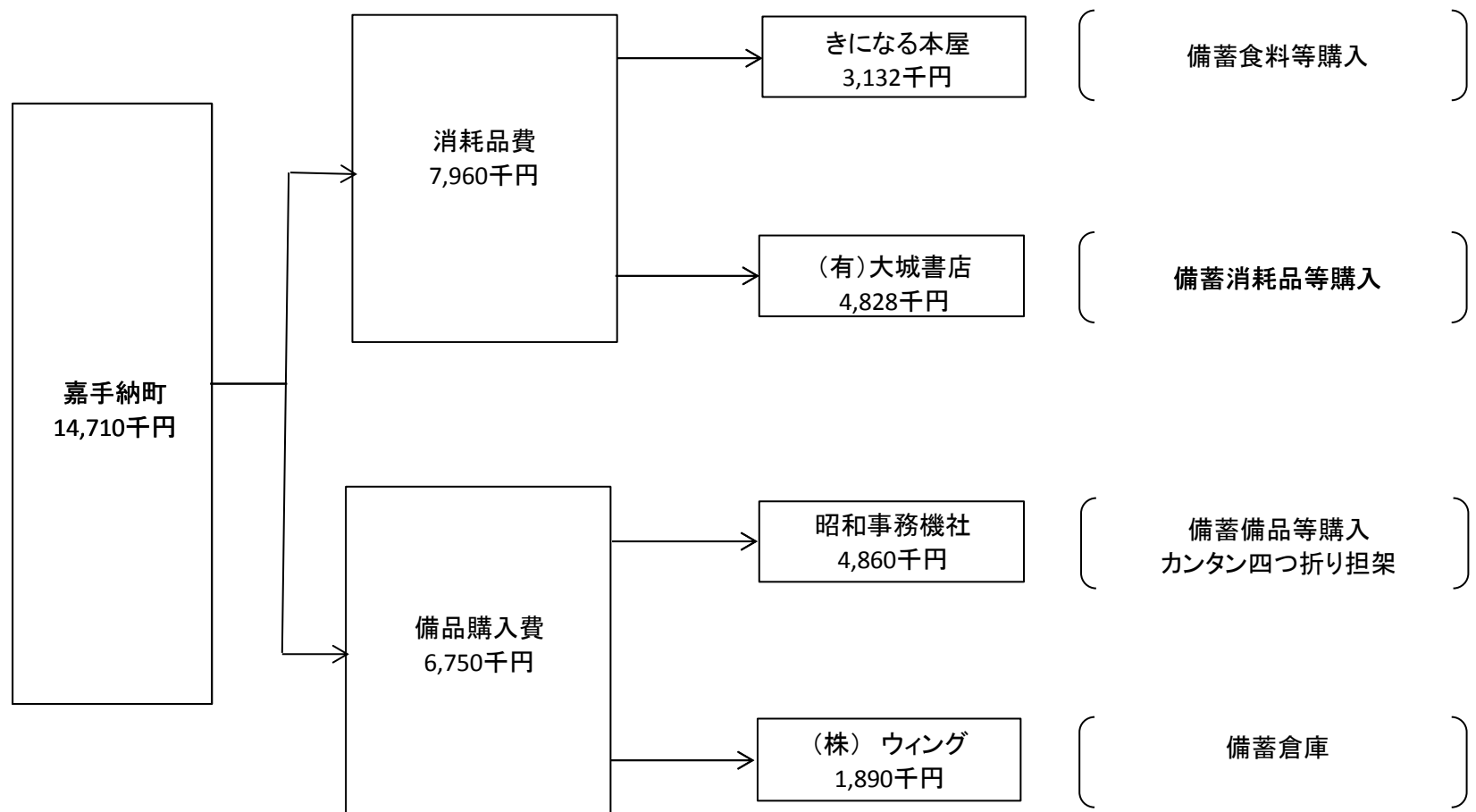
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	嘉手納町内の防災・減災の強化に向けて、今回整備した避難所設置応急対策備品などを災害時にスムーズに活用できるよう防災訓練を実施していく必要がある。加えて、防災について町民への周知が不十分である。今後取り組む必要がある。	嘉手納町内の防災・減災に向けて、有事の際に整備した備品・消耗品等を活用できるよう、テントの設営・発電機等の使用法など実践的な防災訓練を実施していく。また、町広報誌やホームページを活用して、防災についての情報の周知を実施し、意識啓発を図る。

**今後の取り組み方針**

嘉手納町内の防災・減災の強化に向けて、テントの設営・発電機等の使用法や食料品の有効利用を図り、実践的な訓練を実施していく。今後、防災・減災について町広報誌やホームページを活用し広く周知する。また、地域防災計画の見直し時にハザードマップの充実を図っていく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,710	14,710	11,767	2,943	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は指名競争方式により選択しており、妥当である と考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、複数社から見積をもらい決定しており 適正であると考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業目的の観点から必要か等 について額の確定時において支出等に関する書類により確 認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	